

Fujitsu Technology and Service Vision 2025



FUJITSU



日本語版

人とAIで未来を創り出す

ビジネスや社会は今、不安定な政治・経済情勢、地政学的リスク、気候変動などが複雑に絡み合う、かつてないほど不確実な状況に直面しています。

目覚ましい進化を遂げるAIは、ビジネスの生産性向上にとどまらない、産業革命以来の大変革をもたらす可能性を秘めています。一方、AIが生み出す偽情報やバイアスによる社会の混乱、電力消費量の増大といった負の側面も顕在化しています。

このような予測困難な時代において、ビジネスリーダーは人とAIの力をどのように活用し、未来を切り拓いていけばよいのでしょうか？

わたしたちは今、まさに未来への扉の前に立っています。

CEO メッセージ

わたしたちのパーパスは、イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていけることです。

気候変動、社会の格差・分断など、社会課題は依然深刻さを増しており、わたしたちは、かつてないほどの不確実性に直面しています。そのような状況の中、国や企業、そしてアカデミアが共に社会課題の解決に取り組むエコシステムがグローバルで広がっています。

富士通でも、グローバルサプライヤー12社とのCO₂排出量のデータ連携や物流の効率化に向けた異業種間での共同輸配送システムの構築、自社の省電力技術を活用したグローバルパートナーとのサステナブルなコンピューティング基盤の開発といった取り組みを進めています。

しかしながら、エネルギー起源のCO₂排出が観測史上最高となるなど、解決への道は依然遠く、今後イノベーションをさらに加速させていく必要があります。

富士通は、「デジタルサービスによってネットポジティブ¹を実現するテクノロジーカンパニーになる」という2030年までのビジョンを定めました。これから先、持続可能な社会の実現には、AIやコンピューティングといったテクノロジーの力が不可欠です。特にAIは、人の可能性を高める知的パートナーとなることが期待されており、富士通では、適用領域の拡大や信頼性向上に向けた研究開発を強化していきます。

Fujitsu Technology and Service Vision 2025では、AIの進化がビジネスや社会をどのように変えていくのか、富士通がお客様やパートナーとどのような価値を共創していくのか、わたしたちの考えを紹介します。

2025年6月

1) ネットポジティブ：企業が環境・社会に与えるネガティブなインパクトより、環境・社会に与えるポジティブなインパクトが大きいこと



富士通株式会社
代表取締役社長 CEO

時田 隆仁

Opening

- 01. 人とAIで未来を創り出す
- 02. CEOメッセージ
- 04. Fujitsu Technology and Service Vision (FT&SV)
- 05. 人とAIが価値創造の源泉になる
- 06. エコシステムで価値創出のスケールを拡大
- 07. FT&SV 2025

Module

1

ビジネスの未来

- 09. 経営に影響を与える外部要因
- 10. 人口動態の転換
- 11. AIは成果創出の段階へ
- 12. AI活用の課題
- 13. 人とAIが協働する未来
- 14. ネットポジティブに舵を切る
- 15. 半数がエコシステムを活用
- 16. 多様なプレイヤーとの協調がビジネス成果を拡大
- 17. 広がるクロスインダストリー・エコシステム活用
- 18. 2つの潮流を組み合わせ、ビジネスを形作る
- 19. 人とAIを中核とする新たなエコシステム

Module

2

テクノロジービジョン

- 21. 人とテクノロジーが創り出す世界
- 22. AIの進化：人と共生するAIエージェントへ
- 23. 人とAIエージェントがもたらす変革
- 24. 人・ビジネス・社会の未来
- 25. 01 | 人の可能性を解き放つ
- 29. 02 | 企業をリ・デザインする
- 33. 03 | ネットポジティブに貢献する
- 37. テクノロジーがもたらす負の側面
- 40. 富士通の重点技術領域
- 41. 最先端技術で未来を切り拓く

Module

3

変革に向けたアクション

- 44. 未来への「道」
- 45. 4つの変革
- 46. 01 | 人とAIの協調で生産性を向上
- 49. 02 | AIで組織内の意思決定を高度化
- 51. 03 | エコシステムで社会課題解決を促進
- 54. 04 | 企業競争力を高めるIT基盤へ
- 58. 共に未来を創る
- 59. Uvance Wayfinders
- 61. 変革のパートナーへ
- 63. 変革への道をゆく
- 64. 世界中のお客様と社会課題に取り組む
- 65. 参考情報

Fujitsu Technology and Service Vision (FT&SV)

Fujitsu Technology and Service Visionは、どのような未来をお客様やパートナーと共に実現したいのかを伝える、進化を続けるストーリーです。

わたしたちは、これからの時代を象徴するキーワードは「Regeneration（再生）」だと考えています。環境・経済・ウェルビーイングにネットポジティブな価値を創出することが重要です。

2023年、富士通はこの「Regeneration」の考え方に基づき、ビジネスを通じて経済を成長させながら、同時に地球環境をより豊かに再生し、誰もが健康で充実した生活を享受できる「Regenerative society（再生型の社会）」を提唱しました。

そして2024年には、テクノロジーを駆使して再生型の社会を実現する「Regenerative enterprise（再生型企业）」への変革の具体像をお伝えしました。

不確実性が高まり、企業が直面する課題がますます複雑化する2025年。ビジネスを成長させつつ、ネットポジティブな価値を創出する上で重要となる2つの潮流を見ていきます。

2023

**Regenerative
society**



2024

**Regenerative
enterprise**



2025

人とAIが価値創造の源泉になる

これまでの歴史を振り返ると、産業化時代においては機械設備の増強が生産性向上の要でした。しかし、現代においては、人の知識に基づくイノベーションが新しい価値創出の源泉となってきています。

今、急激に進化を続けるAIは、自律的に判断・行動することを通じて様々なタスクを実行するだけでなく、これまで考えられなかったようなアイデアを生み出す可能性を秘めています。AIが価値創造の担い手となる時代がやってきたのです。

その際に重要なことは、「人をすべての中心に置く」というヒューマンセントリックな考え方ではないでしょうか？富士通はこの考え方を長年にわたって大切にしてきました。人が担ってきた仕事を単純にAIに置き換えるのではなく、人とAIは共に成長し、協調して大きな力を生み出していくのです。

この人とAIのコラボレーションこそが、次の時代を切り拓く、新たな価値創造の源泉になっていきます。





エコシステムで 価値創出のスケールを拡大

人とAIが生み出す新たな価値を社会に広く行き渡らせ、発展させていくためには、エコシステムという視点が極めて重要です。

富士通が2025年2月に15か国800人のCxOを対象に実施した調査¹によると、81%のビジネスリーダーが、自社単独のビジネスからエコシステム型のビジネスに移行するだろうと回答しています。

すでに、デジタルコマースやモビリティなどの分野では、エコシステムによってイノベーションの規模をスケールさせ、圧倒的なビジネス成長に結びつけています。価値創出の輪を広げるには、業界の垣根を越えたエコシステムが不可欠です。

人とAIのコラボレーションが生み出すイノベーションをクロスインダストリーのエコシステムによってスケールしていくことで、社会課題の解決とビジネス成長を両立し、ネットポジティブな価値の創出に結びつけることができます。

¹ 富士通がフロスト&サリバンに委託し、欧州、北米、APAC、日本のCxOに対して実施した調査

FT&SV 2025

人とAIの協働が生み出す新たな価値が、エコシステムによって社会全体に広がり、持続的なビジネスの成長とともに環境や社会をより豊かに再生していく。

FT&SV 2025では、このようなエコシステムを活用したビジネスの未来をテーマに、わたしたちの未来ビジョンをお伝えします。

まず、この新たなエコシステムの具体像、次に人とAIが実現する未来のビジネスと社会の姿、最後に皆さまと富士通が未来に向けて共に取り組む具体的なアクションを紹介します。



ビジネスの未来

1





経営に影響を与える外部要因

インフレ・金利・為替変動を筆頭に、AIの進化や人口問題が上位アジェンダに

現在、ビジネスを取り巻く環境はかつてないほど複雑化し、様々な外部要因が経営に大きな影響を与えています。

富士通の調査では、今後3年で経営に最も影響を与える外部要因のトップに、インフレ・金利・為替変動が挙がりました。昨今の政治・経済の情勢は依然として大きな不確実性を抱えており、注視すべき状況が続きます。

2位にランクしたのは、AIの急激な進化です。貧困・格差、人口問題がこれに続きます。経済やテクノロジーの問題に加え、社会を取り巻く構造的な問題に注目が集まっています。

これらの問題はビジネス戦略を左右する重大な要因であり、同時に革新的なビジネスを創出する絶好の機会でもあります。

まず人口問題について、次ページで見てください。

今後3年で経営に最も大きなインパクトを与える外部要因

1	インフレ・金利・為替変動	政治・経済
2	AIの急激な進化	テクノロジー
3	貧困、格差、教育や医療へのアクセス	ウェルビーイング
4	人口問題 (人口減少、高齢化、労働力不足)	政治・経済/ ウェルビーイング
5	エネルギー問題 (クリーンエネルギー、供給の安全保障)	環境
6	気候変動 (地球温暖化、森林火災、洪水)	環境
7	人権問題 (尊厳、人種、民族、性別、マイノリティ)	ウェルビーイング
8	地政学的緊張、紛争	政治・経済

サンプル数：800

人口動態の転換

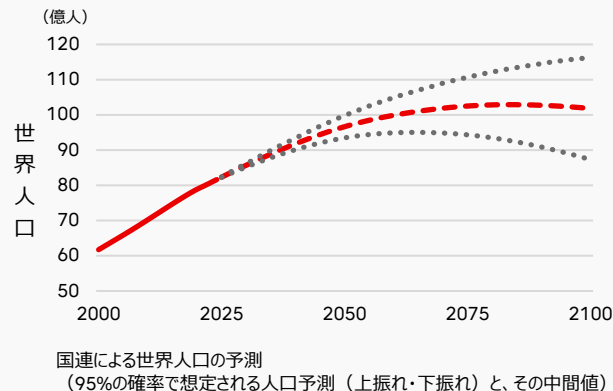
人口動態については様々な予測がありますが、米ワシントン大学IHME（保健指標評価研究所）は、世界人口は2064年に97億人でピークを迎えると予測し、従来予測よりも大幅に低い研究結果を発表して世界に衝撃を与えました。¹ 国連も2060年代中盤から2100年の間に人口減少が始まると予測しています。² この人口減少の要因の一つが、出生率の低下です。2025年においては、中東・アフリカを除くすべての地域で出生率が人口置換水準2.1人を下回る見通しです。² すでに先進国を中心に人口減少が始まっています。

人口減少は、労働力不足の問題だけでなく、高齢化に伴う社会保障費の増大、税収減による公共サービスの低下、地方都市の衰退など、広範囲に影響を及ぼします。

中長期的な人口減少を前提としたビジネス戦略が必要です。来る人口減少社会において持続可能な成長を維持するためには、生産性の飛躍的な向上が不可欠です。

この生産性向上に大きな貢献が期待されるのが、AIをはじめとしたテクノロジーです。次のページより、今後のビジネス戦略を立てる上で、AIが果たす役割を見てみましょう。

世界人口は今世紀中にピークを迎え、減少へ²



ほとんどの地域で出生率が2.1を割り込む²

	合計特殊出生率（予測）		
	2025年	2050年	2100年
世界全体	2.24	2.10	1.84
アメリカ	1.71	1.66	1.64
アジア・パシフィック	1.77	1.74	1.70
ヨーロッパ	1.42	1.50	1.58
中東・アフリカ	3.71	2.69	1.99

1) Institute for Health Metrics and Evaluationより許諾を得て掲載

2) World Population Prospects 2024, United Nations 図表はデータをもとに当社作成

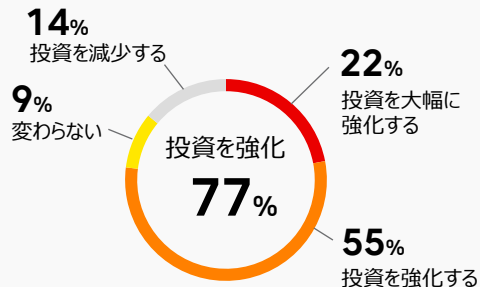
AIは成果創出の段階へ

ほぼすべての企業が生成AIを導入、生産性に大きく寄与

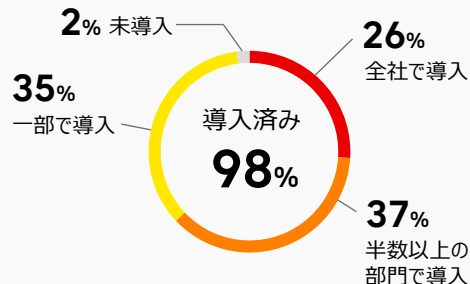
すでに多くの企業がAIについての戦略的な取り組みを進めています。調査対象企業の約8割が今年のAI投資を強化すると回答しています。生成AIに関しては、ほぼすべての企業が自社への試験導入あるいは本格導入を終えている状況です。

今回の調査では、AI活用が企業の生産性を押し上げている状況も分かりました。AIを活用している企業の6割以上が、AIによって従業員の生産性が10%以上向上したと回答しています。AIは、具体的な成果を生み出す段階に入っているのです。

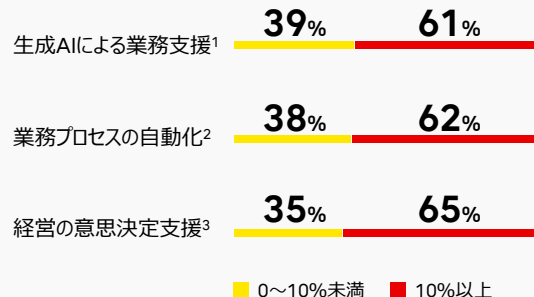
今年のAIへの投資計画



生成AIの導入状況



AIによる生産性向上



サンプル数：800

サンプル数：1) 297 2) 255 3) 245
それぞれの業務で現在AIを活用していると回答した数

AI活用の課題

本格導入が進む中、一番の課題は人材不足

企業がAI活用に力を入れる中、課題も浮かび上がってきました。

調査では、AI導入における最大の課題として「AIを活用するための人材不足」が挙がりました。AI人材の不足は、多くの企業において従業員のスキルと企業が必要とするスキルのミスマッチを引き起こしています。AI活用のためのリスキリングが重要性を増すとともに、社会におけるAI教育の強化が不可欠となります。

また、AIにはネガティブな側面も存在します。Module2で後述しますが、社内データ漏洩や著作権侵害といったセキュリティ上の問題、そしてAIによるエネルギー消費増大への対応は、避けて通ることができません。

企業はこれらの課題への対応を迅速に進めています。課題を認識している企業のほとんどが、すでに対応を検討、あるいは実施中であり、積極的に対応に取り組んでいます。



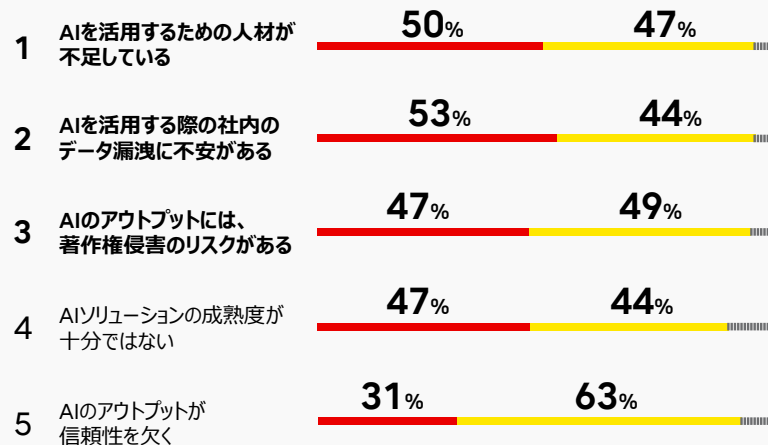
AI導入の最大の課題は技術ではなく、人です。多くの人はブラックボックスの意思決定に抵抗があり、AIのリテラシーやスキルセットが不足しています。

SVP、卸売・小売、イギリス

AI導入に取り組む上での課題と対応状況

課題トップ5

課題への対応状況



サンプル数：800

■ 対応を実施中 ■ 対応を検討中 ■ 対応する予定はない

人とAIが協働する未来

AIが企業にもたらすインパクトは生産性向上だけではありません。AIによって、企業はこれまでとは全く異なる姿に変わっていきます。2030年までの予測として、ビジネスリーダーの8割が、自社のビジネスプロセスの50%以上にAIが組み込まれるだろう、また、AIが自社の経営やあらゆる業務に浸透し、AIで駆動される企業へと変革するだろうと回答しています。

AIは人の働き方も変えていきます。2030年までにすべての従業員がAIの支援を受けて業務を遂行するようになるだろうと回答したビジネスリーダーは79%に上ります。同時に、ビジネスリーダーの8割がAIの活用が自社の労働力不足を緩和する鍵になると考えています。

AIの活用には2つの可能性があります。1つは自動化を推し進め、人を機械的プロセスの歯車にしてしまう道。もう1つは、AIが人をエンパワーし、より自由で創造的に働くことを可能にする道です。

人とAIのコラボレーションをどのようにデザインするのか、これは経営者にとって非常に重要な経営アジェンダのひとつです。AIを戦略的に導入し、人とAIが協働する「AI駆動型の企業」への変革を推進することが重要です。

次に、企業がAIを活用し、持続可能なビジネスと社会の実現に向けてどのように取り組みれば良いのかを見ていきましょう。

2030年の予測

AIで駆動されるビジネス

81%

自社のビジネスプロセスの50%以上にAIが組み込まれる

79%

AIが自社の経営やあらゆる業務に浸透し、AIで駆動される企業に変革する

人とAIの協働

79%

すべての従業員がAIの支援を受けて業務を遂行するようになる

82%

AIの活用が自社の労働力不足を緩和する鍵になる



AIによって仕事を大量に奪われることはなくとも、AIは仕事を再定義するでしょう。未来の労働力は、専門知識を持った人と、人の能力を拡張するAIが融合したものになるでしょう。

Chief Data Officer、卸売・小売、イギリス

ネットポジティブに舵を切る

持続的なビジネス成長とともに、環境とウェルビーイングを豊かにしていく

現在の経済的・地政学的な混乱を背景に、一部の企業では生き残りを優先し、短期的な利益に焦点を当てる動きが見られます。しかし、企業が持続的に成長するためには、目先の利益にとらわれない、長期的な視点が不可欠です。

富士通の調査によると、ビジネスリーダーの83%が経済成長に加えて、環境やウェルビーイングの価値を追求するビジネスに移行すると回答しています。また、80%が、サステナビリティを超えて環境や社会をより豊かにする取り組みにシフトするだろうと回答しています。

では、企業はどのような目標を立てているのでしょうか。サステナビリティの最終目標としてネットゼロ¹を掲げる企業は37%、さらにネットポジティブ²を掲げる企業は17%に上りました。

環境やウェルビーイングの課題解決を大きなビジネス機会として捉え、ネットポジティブに舵を切り、新しい価値創出に取り組む企業が現れています。

では、持続的なビジネス成長とともに、環境やウェルビーイングをより豊かにしていくためには、どのように取り組めばよいのでしょうか？

ネットポジティブな価値を創出するビジネスに移行

経済成長のみを追求するビジネスから、環境やウェルビーイングの価値も追及するビジネスに移行するだろう

83%

サステナビリティを超えて環境や社会をより豊かにする取り組みにシフトするだろう

80%

1) ネットゼロ：温室効果ガスの排出量と吸収量のバランスを取り、実質的な排出量をゼロにすること

2) ネットポジティブ：企業が環境・社会に与えるネガティブなインパクトより、環境・社会に与えるポジティブなインパクトが大きいこと

半数がエコシステムを活用

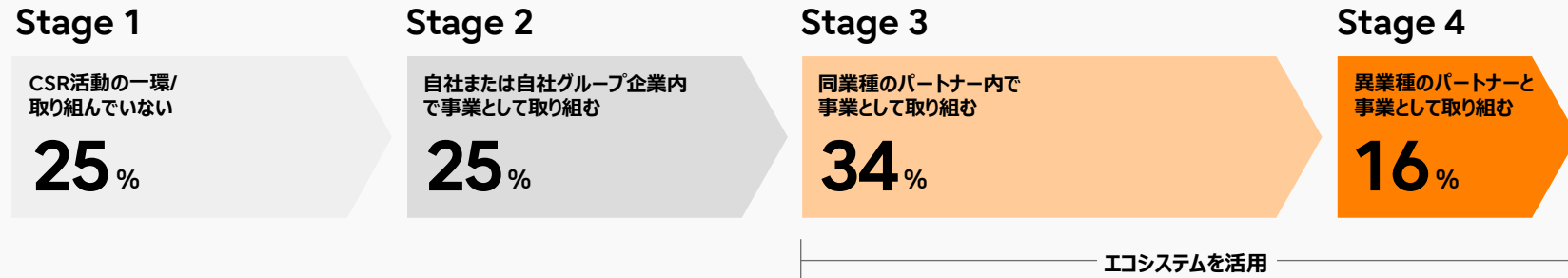
多くの企業が、気候変動への対応、経済と産業の持続可能な発展への貢献、ウェルビーイングの向上などの社会課題の解決に事業として取り組んでいます。

これらの環境・経済・ウェルビーイングの問題に、1社単独で取り組むのではなく、エコシステムで取り組む動きが進んでいます。調査でも、ビジネスリーダーの81%が、自社単独での価値提供から、エコシステム型のビジネスに移行するだろうと回答しています。

調査結果では、約半数の企業がエコシステムを活用していました。このうち、クロスインダストリーのパートナーとエコシステムを形成して取り組む企業は16%でした。多くの企業がエコシステム活用を有効と認識しており、一方で、業界の垣根を越えた連携にはまだ大きな伸びしろがあることが分かります。

では、エコシステムを活用している企業は、どのような成果や価値を創出しているのでしょうか？

環境・経済・ウェルビーイングの価値創出への取り組み状況 サンプル数：800

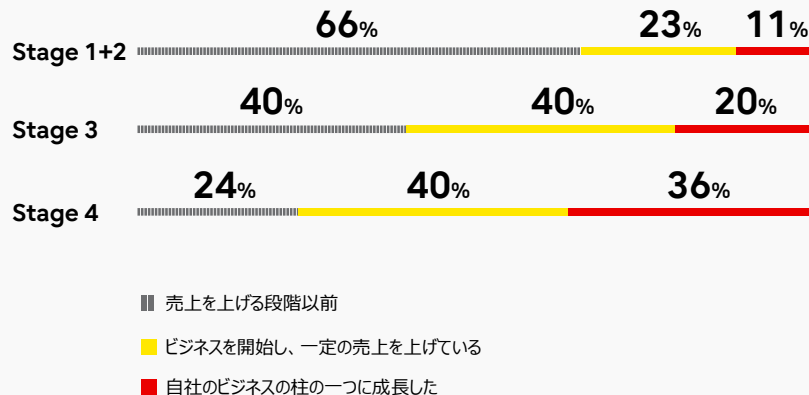


多様なプレイヤーとの協調がビジネス成果を拡大

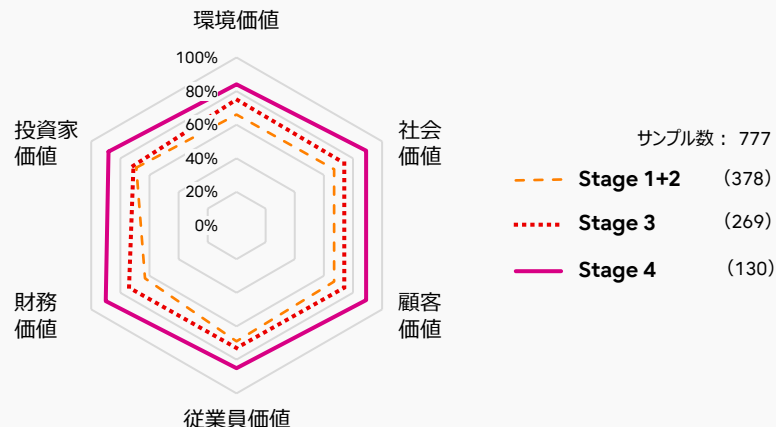
エコシステムを活用している企業（P.15のStage 3, 4）の6割以上が、環境・経済・ウェルビーイングの課題解決の取り組みをビジネス化し、売上に結びつけています。さらに、異業種のパートナーと取り組む企業（Stage 4）に限ると、36%がこれらの取り組みを自社のビジネスの柱の一つに成長させていると回答しています。

また、これらの企業は、社会、顧客、従業員、投資家などのマルチステークホルダーに対して、より大きな価値を創出しています。エコシステム活用によってビジネス成長と環境や社会への価値提供を両立しているのです。

クロスインダストリー・エコシステムで取り組む企業（Stage 4）の3分の1が、自社のビジネスの柱の一つに成長させている



クロスインダストリー・エコシステムで取り組む企業（Stage 4）は、より大きなステークホルダー価値を提供



広がるクロスインダストリー・エコシステム活用

エコシステムの活用を自社の未来を左右する戦略として位置づけ、多様なプレイヤーと積極的にコラボレーションする動きが加速しています。今、環境・経済・ウェルビーイングの価値を創出するクロスインダストリー・エコシステムの取り組みが世界中で始まっています。

環境

- 新材料開発** エネルギー効率の高い素材の共同開発
- エネルギー** 風力、水素などの再生エネルギーの活用促進

経済

- モビリティ** 自動運転や共同配送・輸送による輸送効率の向上
- スマートシティ** データの共同利用による都市サービスの高度化

ウェルビーイング

- 創薬** AIとシミュレーションを活用し新薬を共同開発
- 地域包括ケア** パーソナライズされた医療・健康増進サービスを提供



新材料開発



エネルギー



スマートシティ



モビリティ



創薬



地域包括ケア

2つの潮流を組み合わせ、ビジネスを形作る

AIのビジネス実装が加速する今、これからのビジネスは、人とAIのコラボレーションによって推進されます。さらに、社会課題への対応をビジネス機会と捉え、クロスインダストリー・エコシステムを構築して成果を上げている先進的な企業が出ています。

この2つの大きな潮流を組み合わせ、未来のビジネス戦略を具体化していくことが重要です。

AIとエコシステムは、複雑に絡み合った社会課題を解決するための強力な手段となり得ます。

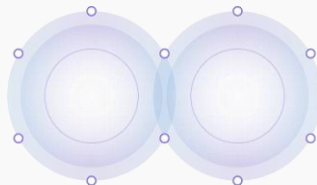
AIはデータに基づいて新たなつながりやパターンを発見するとともに、人の可能性を引き出し、新たな価値創造を可能にします。この価値創造の取り組みは、多様なプレイヤーによって形成されるエコシステムを通じてスケールさせることができます。複雑な社会課題への対応を飛躍的に加速できるのです。

未来のビジネスは、人とAIのコラボレーションによって新たな価値を生み出し、それをクロスインダストリー・エコシステムを通じて社会全体に展開していく姿に変わっていきます。

人とAIのコラボレーションで価値を創造



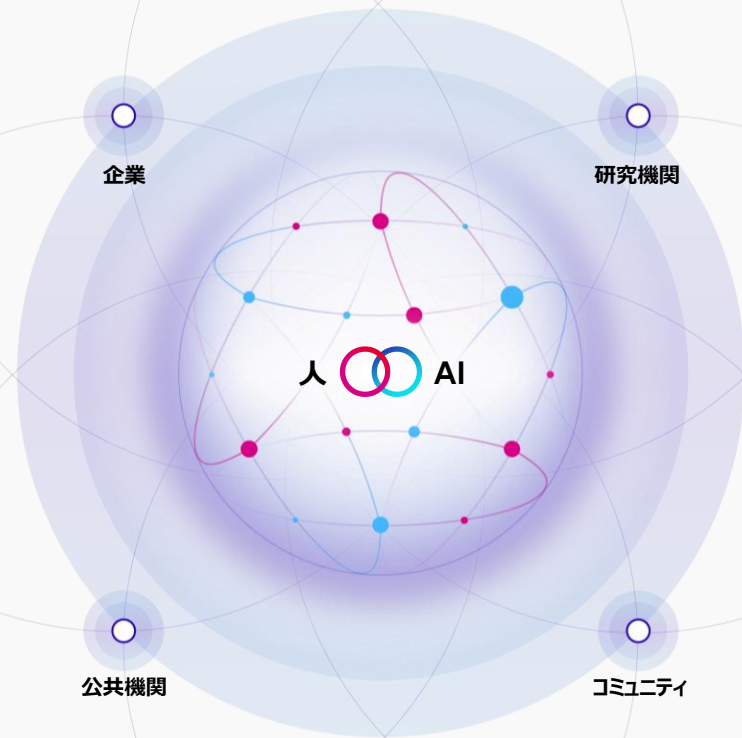
エコシステムによって
価値創出のスケールを拡大



人とAIを中核とする 新たなエコシステム

人とAIが中核となって価値を創出し、クロスインダストリーのパートナーとの連携を通じてネットポジティブを実現する新しい価値創造エコシステム。わたしたちはこれを「Regenerative ecosystems（再生型のエコシステム）」と呼び、このエコシステムを活用して複雑で困難な社会課題の解決に結びつけていきます。

次のModule2では、この新たなエコシステムにおいて、AIを中心としたテクノロジーがどのように価値を創出して人・ビジネス・社会を変革していくのか、わたしたちのテクノロジービジョンをお伝えします。



再生型のエコシステム

テクノロジービジョン



人とテクノロジーが創り出す世界

AIはコンピュータやインターネットと同様に、民主化されたテクノロジーとして進化を続け、非常に広範囲な産業・働き方・生活、そして社会インフラに深く浸透していきます。

その影響は単なる効率化や利便性の向上に留まらず、AIは環境の再生、ウェルビーイングの促進、そして持続可能な経済成長を支える基盤となる可能性を秘めています。

Module2ではAIの進化によって人とAIのコラボレーションが加速し、様々な境界や制約を越えて価値が生み出される未来ビジョンと、それを実現する富士通の最先端テクノロジーを紹介します。

AIの進化：人と共生するAIエージェントへ



AIが急激な進化を遂げ、新たなブレイクスルーが次々と生み出されています。**生成AI**は、言葉の**意味を理解**し、人とAIが自然なコミュニケーションを行うことを可能にしました。しかし、これはAIの進化の序章に過ぎず、本当のAI革命はこれから始まるのです。その鍵を握るのが、**目標達成に向けて自律的に行動する「AIエージェント」**への進化です。

AIエージェントは、収集・分析した様々な情報を基に、ルールに則って**自動的に次のアクションを判断・実行**するようになります。次のステップとして、現実世界の状況から学習する身体性などの能力を備えたAIエージェントは、**自律的に状況を判断し、最適なアクションを実行**できるように進化していきます。

さらに、**マルチAIエージェント**が相互に協力することによって、**お互いの知能を連携し**、より複雑な課題に取り組むことができるようになっていきます。わたしたちは、AIが人と目標を共有して新たな価値を創造する、人と共生する存在になっていくと考えています。

一方で、AIの進化は人の自由や尊厳を冒す重大なリスクも伴います。ヒューマンセントリックの原則に基づいて、AIを開発・活用することが不可欠です。同時に、わたしたち自身も高い倫理観を持ち、正しい目的を定めてAIをコントロールしていかなければなりません。進化するAIが人に及ぼす影響を見極めつつ、人の役割を再定義していくことが求められます。

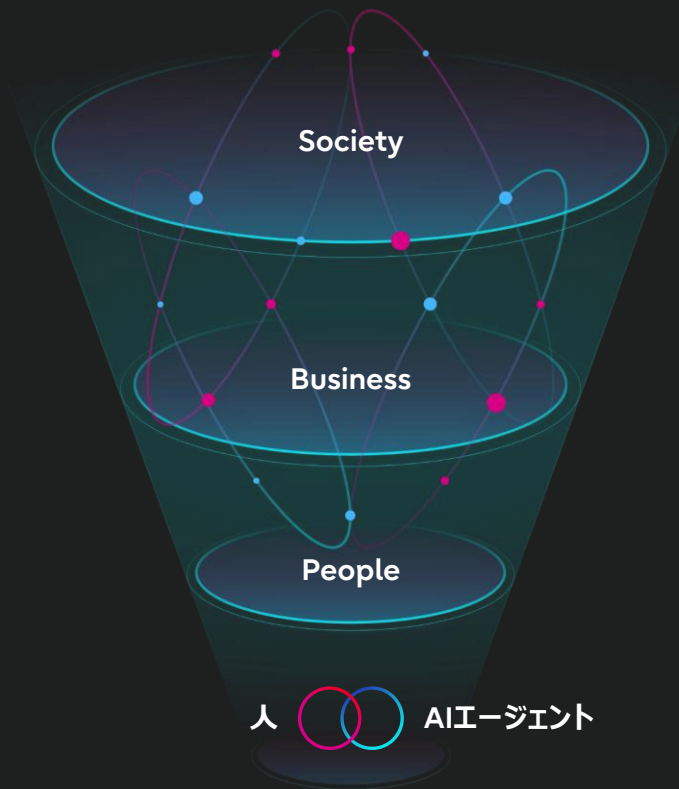
人とAIエージェントがもたらす変革

このような進化を続けるAIエージェントが、今後本格的にビジネスや社会に実装されて、人の働き方、ビジネス、そして社会のあり方を根底から変えていきます。

AIエージェントは、人とあらゆるデータ、知識、知能をつないだネットワークを作り、わたしたちの働き方を大きく変えていきます。この人とAIエージェントのネットワークが、ビジネスのあらゆる領域に組み込まれ、企業の戦略やビジネスプロセスもこれまでとは異なる形に変わっていきます。

さらに、人・企業・社会が、マルチAIエージェントを介してつながり、エコシステムを構築することで、社会課題への対応が加速していきます。AIエージェントが、様々なセンサーやロボットに組み込まれることで、リアルとデジタルの世界をシームレスにつなぐ入り口として機能します。現実世界の状況をデジタルの世界でリアルタイムに把握することによって、社会の課題への迅速かつ的確な対策が可能となります。

それぞれの領域で、人とAIエージェントのネットワークが、圧倒的な速度とスケールで新たな価値を生み出していくのです。



人・ビジネス・社会の未来

ここから、人とAIエージェントのネットワークが人・ビジネス・社会の3つの領域で作り出す未来の姿、そして、その未来の実現に貢献する富士通の最先端テクノロジーを併せて紹介します。

01 | People 人の可能性を解き放つ

AIエージェントとの協働を通じて、人の能力を引き出し、創造性と生産性を最大化



02 | Business 企業をリ・デザインする

インテリジェンスを提供するAIエージェントの連携によって、組織の壁を越えてイノベーションを加速



03 | Society ネットポジティブに貢献する

マルチAIエージェントが、様々な企業や組織をつなぎ、環境や社会への価値を創出



01 | 人の可能性を解き放つ

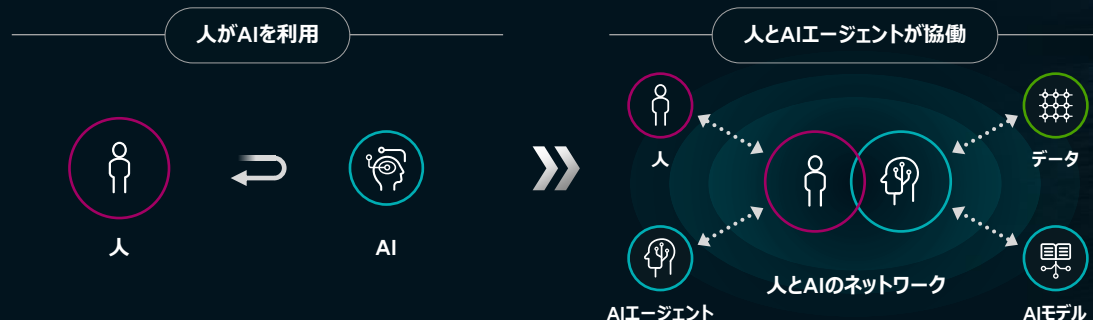
AIエージェントが個人の創造性と生産性を最大化

AIエージェントは、人の能力や創造性を最大限に引き出すパートナーになっていきます。

AIエージェントは、人が決めた目標や裁量の範囲内で自律的に行動し、人を定型的な業務から解放します。これにより生産性が飛躍的に高まるだけでなく、人はより時間を自由に使って、創造的な取り組みに挑戦することができるようになります。

さらに、AIエージェントは多様な知見を持つ人や様々なデータ、データから目的にあった回答を導くAIモデル、さらに他のAIエージェントがつながるネットワークを形成します。このネットワークを活用して人とAIが協働し、個人では気づかないアイデアの創発を促します。

このような人とAIのネットワークを基盤に、人は自身の可能性を解き放ち、創造性を発揮しながらイノベーションに挑戦していきます。





AIエージェントと取り組む素材開発

バイオマテリアル社は、「素材の力で地球環境と人々の暮らしを豊かにする」をパーパスに掲げ、衣料向けの素材を開発しています。Leeは、研究開発部門で新素材開発プロジェクトを推進するチームリーダーです。カーボンニュートラルなバイオマス素材¹をテーマに掲げ、合成繊維と比較して課題であった耐久性・耐熱性の強化に向けて、新たな素材開発に挑んでいます。

LeeはパートナーであるAIエージェント「Nova」に対して、「今回の素材は環境負荷を大幅に抑えながら、石油由来の素材よりも優れた品質を確保したい」と伝えました。NovaはLeeの方針を理解し、生分解性²を持つ素材に関する特許調査を進めると同時に、新素材開発の課題や他分野での成功事例を自ら分析し、新たな製法に関する方向性を提案しました。

Novaの提案をベースに、Leeは新素材の合成方法のアイデアをNovaやチームメンバーと議論し、3つの製法に対して評価を行う方針を立てました。この方針に基づき、Novaは評価指標を自ら検討し、環境性能・耐久性・耐熱性の向上に伴うコストインパクトを試算するマトリクスを作成しました。LeeとNovaは、このマトリクスをベースに新素材の候補と製法の評価を進めています。

このように、LeeとNovaはプロジェクトを通じて互いに成長していきます。Leeは調査やコスト試算の時間を大幅に削減し、これまで以上に創造的な仕事に専念していきます。一方でNovaは、Leeの意図をより深く理解し、さらに自律的に業務を実行するパートナーへと進化していきます。

Lee

バイオマテリアル社で新素材開発プロジェクトを推進する研究開発部門のチームリーダー

1) バイオマス素材：植物などの再生可能な有機資源を原料とする素材
2) 生分解性：物質が微生物などの生物の作用により分解する性質

人と成長するAI

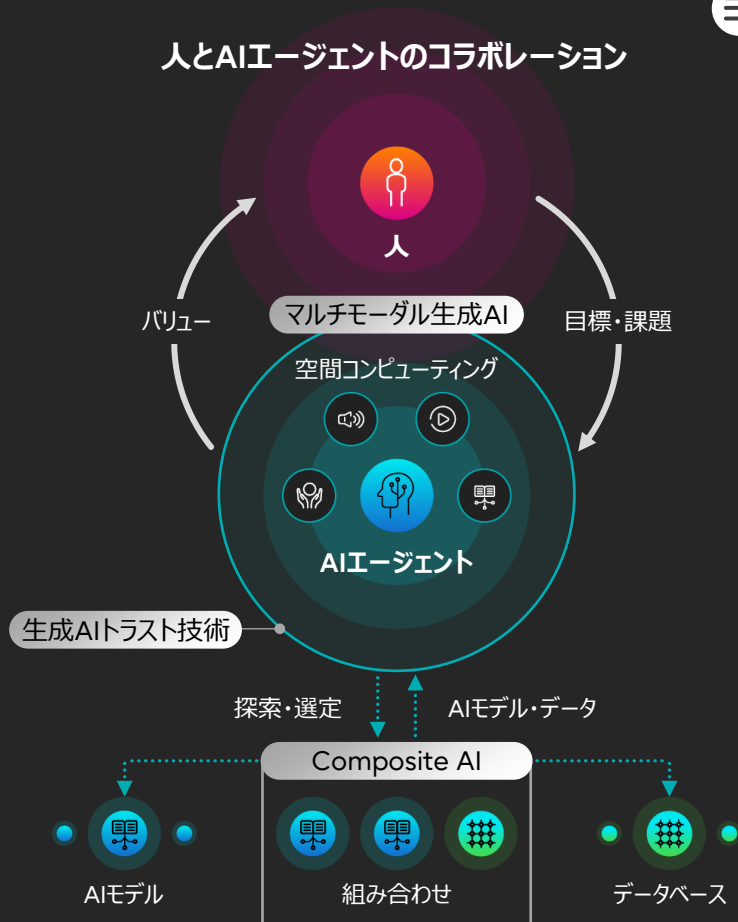
現在の生成AIに以下の3つの要素を備えることで、人とAIが互いに補完し合いながら連携する自律的なAIエージェントとして進化し、わたしたちの可能性を解放つパートナーとしての役割を担うことが期待されます。

第1に、人の感情や感覚を推定し、自然なコミュニケーションを可能とするマルチモーダル生成AIです。さらに、様々なセンサー等を通じて周囲の環境と相互作用する空間コンピューティング機能と身体性を備えることで、AIエージェントはわたしたちの意図をより深く理解し、人と協力しながら自律的に課題に対応していきます。

第2に、人が設定した目標に対して、最適なAIモデルやデータベースを選定・組み合わせるComposite AIです。これまで活用が困難であった専門的なAIモデルやデータを提供することによって、人の創造性を刺激し、アイデアの創発を促します。

第3に、インターネット上に蔓延する偽情報や、生成AI自身が生み出してしまうハルシネーションを検出する生成AIトラスト技術です。この技術は、AIエージェントが提供する社内外のAIモデルやデータを、わたしたちが安心して活用できる環境を提供します。

これらの技術の融合により、AIは人をより深く理解する自律的なAIエージェントへと進化し、人と共に成長する存在となるのです。



AIのビジネス適用を加速する

AIが急激な進化を遂げる今、AI活用はビジネスの競争優位獲得に不可欠です。富士通は、最先端AI技術の研究開発に取り組むとともに、AIを迅速にビジネス適用していくための環境整備を推進しています。

AIエージェントとLLMの研究開発を強化

富士通は、会議の内容を把握し、有益な情報を提供するAIエージェントや、製造や物流作業を支援するAIエージェントを提供しています。さらに、複雑な業務課題を解決し、計画・実行・改善を繰り返しながら成長するAIエージェントの実現に向けた研究開発を推進しています。

また、富士通は、プライベート環境で利用できる大規模言語モデル「Takane」をCohere社と共同開発しています。企業固有のデータの学習や、計算リソース・消費電力の低減など、更なる機能強化に取り組んでいます。

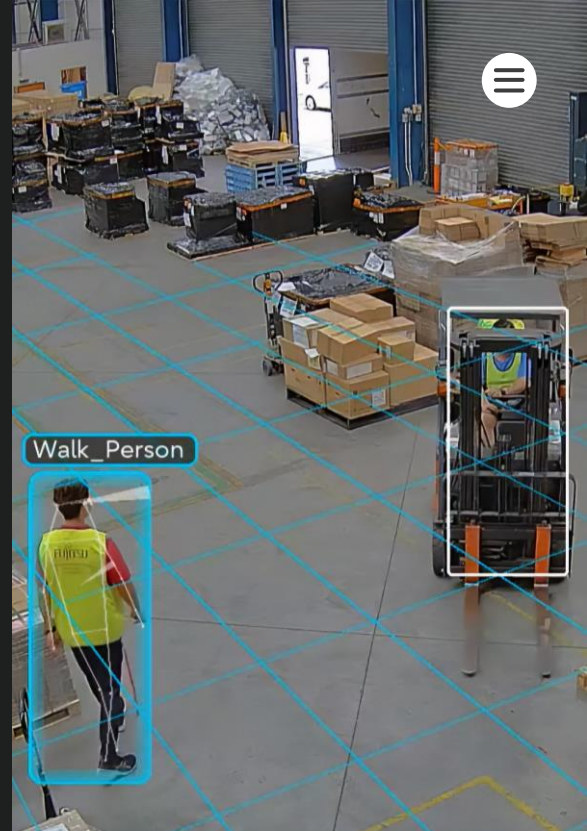
AIトラスト技術で世界をリード

高度な意思決定・判断が求められる業務にAIを適用するためには、専門性の向上に加え、信頼性の向上が不可欠です。富士通は、AIのアウトプット品質、セキュリティ、倫理などのAIトラストに関する技術開発をリードしています。

例えば、信頼できる対話型生成AIを実現するため、もっともらしい誤りを回答するハルシネーションへの対策や、AIを騙す敵対的攻撃への対処が可能なAIセキュリティ技術を開発し、法務やサプライチェーンといった専門領域へのAI導入を加速していきます。

Fujitsu KozuchiでAIの導入を加速

富士通は、進化の速いAI技術をお客様が使いやすく、そしてすぐに使える環境を用意し、AIの適用拡大を促進しています。例えば、複数のAIを組み合わせ、より複雑な課題に対応するComposite AI技術の研究開発を進めています。さらに、このようなAI技術を研究開発段階から利用できる「Fujitsu Kozuchi」を提供しています。この取り組みを通じてお客様から得たフィードバックを反映し、研究開発を加速するとともにビジネスへのAIの導入を加速していきます。



映像解析型AIエージェント

画像認識技術、AIをつなぐComposite AI技術、生成AIを組み合わせ、危険作業の報告や現場改善の提案を自律的に実行

02 | 企業をリ・デザインする

組織の壁を越えたインテリジェンスが、イノベーションを加速

AIエージェントは、ビジネスプロセスや組織に大きな変革をもたらしていきます。企業内の組織は人とAIエージェントで構成され、企業の構造も、従来の階層型から各組織が柔軟に連携するネットワーク型へとシフトしていきます。

各組織はAIエージェントとの協働を通して、組織としての専門性を高めていきます。そして、高度なシミュレーションを実行するAIモデルなどを活用して企業戦略の策定や新事業創出などに取り組んでいきます。

この戦略や新事業創出に関するアイデアを、マルチAIエージェントを介して他の組織と協力して検証することで、新たな施策や製品・サービスの迅速な創出が可能になります。

人とAIエージェントで構成されるネットワーク型の組織へのリ・デザインが、ビジネス環境や市場変化に対応した戦略策定や製品・サービスの創出を加速していきます。





組織を越えて知を結集する

バイオマテリアル社は、マルチAIエージェントを介して連携したネットワーク型組織によって、新たなアイデア創発や迅速な意思決定を実現しています。商品企画部門で事業化を担当するSarahは、Leeが開発した新素材に着目し、新規事業プロジェクトを立ち上げました。

既存のアパレル市場にとらわれず、新たな市場を開拓したいというSarahの想いを聞いたプロジェクトメンバーとAIエージェント「Liz」は、マルチAIエージェントを通じてつながった各部門に対して、市場開拓のアイデアを募りました。その結果、製造部門からは耐久性への要望や、品質保証部門からはマテリアル・リサイクル¹へのニーズが寄せられました。これらの情報をもとに、特に耐久性とリサイクル性能が求められる製造や医療などのプロフェッショナル向け市場に、新素材の可能性を見出しました。

製造や医療現場で求められる品質基準や法規制に関しては、Lizと品質や法務部門のAIエージェントが連携し、迅速に対応策を検討しました。また、新規顧客となる業務用衣料メーカーの開拓については、購買部門のAIエージェントが潜在顧客リストを提供してくれました。このリストを基に、Sarahのプロジェクトメンバーは、営業部門の協力を得てバイオマス素材を使った業務用衣料に関するフィールド調査を開始しました。Lizは、この複数チームの協働の成果をとりまとめて、Sarahのメンバーとのプロジェクト推進に奔走しています。

SarahはAIエージェントとともに組織の枠を越えたインテリジェンスを結集し、圧倒的なスピードで法人向け新規事業の立ち上げを推進しています。

Sarah

バイオマテリアル社の商品企画部門で新規事業化を担うプロジェクトリーダー

1) マテリアル・リサイクル：回収品を利用しやすいように加工し、新たな製品の原料として再利用するリサイクル方法

企業を変革するAIコンピューティング

AIとコンピューティング技術の融合が、柔軟な組織間連携によるイノベーション創出を加速し、企業変革を支えています。

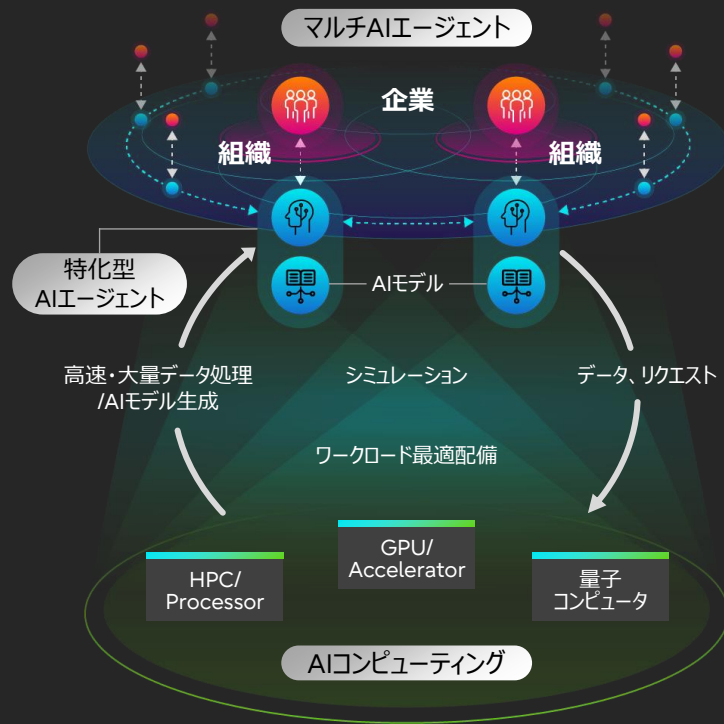
AIエージェントは、研究開発、財務経理、人事などの各組織特有のビジネスプロセスや、特定の分析・解析などの知見を持つ専門的なAIモデルを組み込んだ特化型AIエージェントとして専門性を高めています。

さらに、マルチAIエージェント技術によって複数の特化型AIエージェントが自律的に協働し、連携を強化していきます。このネットワークを通じて、構造解析などの科学的な分析を行うAIエージェントや、複数の組み合わせから最適な組み合わせを探索するAIエージェントが連携してシミュレーションすることで、新たなアイデアの創出やスピーディーな検証を実現します。

このように複数のAIエージェントを配備し連携させるためには、分散型でリアルタイムに高速なデータ処理を支えるAIコンピューティングが必要です。AIコンピューティングが、ワークロード（業務の特性）に応じた最適なコンピューティングリソース、シミュレーション、さらにAIモデルを提供します。

専門性を高めたAIと業務に最適化されたコンピューティングが、迅速な意思決定やイノベーション創出を支え、企業はAI駆動型の企業へと進化していきます。

マルチAIエージェントによる企業変革



AIとコンピューティングの融合で革新をもたらす

ビジネスのあらゆる領域にAIやコンピューティングを配備することが、組織の機動力を高め、イノベーション創出を加速します。富士通は、AIとコンピューティング技術を強化するとともに、この2つの技術を融合する研究開発を推進しています。

複雑な課題に対応するAIエージェントを開発

富士通は、製造や物流の作業効率化を支援するAIエージェントを提供しています。さらに、様々な業務に特化したAIエージェントを開発するとともに、複雑なビジネス課題に対応することを目指したマルチAIエージェント技術の研究開発を強化しています。具体的には、エージェント同士が学習する技術やタスクを分業する技術などの研究に取り組んでいます。

AIコンピューティングのリソース最適化

富士通は、AIやシミュレーションなど様々なワークロードに応じて最適なコンピューティングリソースを提供する技術の研究開発を進めています。その一つが、GPUとCPUの利用効率を高めるAI computing brokerです。この技術は、GPU不足とAIの電力問題という両方の課題解決に寄与し、企業におけるAI活用を加速します。

AIコンピューティングの可能性を追求

富士通は、AIとコンピューティングを融合し、より高度なシミュレーションを可能にする技術開発を進めています。10万を超える原子から構成される素材の反応メカニズムのシミュレーションや、90億を超える遺伝子変異を解析するゲノミクスAIの研究開発に取り組んでいます。

また、富士通は、量子機械学習などAI技術を発展させる技術としても期待されている量子コンピューティングの研究開発に取り組んでいます。量子デバイスからアプリまでの全領域で世界トップクラスの研究機関や企業と協調しています。例えば、大阪大学と共同で、量子コンピュータの実用化を加速する新しい量子計算手法であるSTARアーキテクチャを発表しました。富士通は、AIとコンピューティングを融合し、新材料開発や創薬、電力インフラ最適化などの分野におけるイノベーションに貢献していきます。



量子コンピューティング

理研RQC-富士通連携センターにて開発された、世界最大級となる256-qubitの量子コンピュータを発表

03 | ネットポジティブに貢献する

マルチAIエージェントが産業を越えたエコシステムを形成

今後、これまで企業や消費者が行ってきた広範囲な取引をAIエージェントが自律的に実行するように変化し、環境や社会への価値創出の仕組みを変革していきます。

このAIエージェントの進化が、従来の縦割りの産業構造から、共通の目的（シェアードパーパス）に基づいて企業や組織が連携して社会的な価値を共創するクロスインダストリー・エコシステムへのシフトを加速させます。

このマルチAIエージェントが形成するエコシステムでは、各社が保有するデータや環境・社会シミュレーションなどの専門的なAIモデルが共有され、環境問題や労働力不足、社会インフラの維持といった困難な社会課題の解決を促進します。

このようなエコシステムが、参加する企業の成長をもたらし、社会にネットポジティブな価値を創出していく。これが、わたたちが構想するRegenerative ecosystemsです。

縦割りの産業構造



クロスインダストリー・エコシステム





エコシステムによる価値創造

バイオマテリアル社はパーパスの実現に向けて、繊維素材を軸とした循環型ビジネスモデルの構築を目指したエコシステムの強化に取り組んでいます。エコシステムには、バイオマス素材を支えるトウモロコシなどの穀物生産者や物流業者、衣類メーカーといった製造・流通事業者に留まらず、ヘルスケアやエネルギー分野の企業や研究機関など、クロスインダストリーのプレイヤーが参加しています。

このエコシステムでは、各社が保有するデータやAIモデルが安心安全に共有されています。エコシステムの参加プレイヤーはマルチAIエージェントを介して連携し、土壌の健康状態やCO₂吸収量などの環境指標に加え、原料生産から製品利用・リサイクルまでのライフサイクル全体に関わるデータとプロセスを統合したシミュレーションを実行しています。このシミュレーションによって、複数の施策オプションによる環境への効果と、参加企業のビジネスインパクトを事前に検証することができます。この結果を活用し、エコシステムにおける合意形成を迅速に行い、穀物生産からリサイクルまでの循環型のエコシステムの実現に取り組んでいます。

また、エコシステム上で開発した環境負荷シミュレーション用のAIモデルは、オープンに公開されています。地球規模の環境負荷軽減に向けて、様々な企業や研究者がこのAIモデルを共同利用しています。AIモデルの共有によって、各社は個別にモデル学習を繰り返す必要がなくなり、電力消費やCO₂排出量を抑えながら、より高精度な環境対策を実行しています。

こうしたエコシステムを通じた活動の広がりが、個社のサステナビリティの取り組みを越えて、世界規模でネットポジティブの実現につながっていくのです。

エコシステムをつなぐテクノロジー

クロスインダストリー・エコシステムにおいて異なる産業に属する多様なステークホルダーが協力し、成果を生み出すために必要なものは何でしょうか？その鍵となるのは、マルチステークホルダー間の信頼、AIのセキュリティ、迅速な合意形成だと、わたしたちは考えています。

デジタルトラストの進化が、エコシステムにおける信頼を担保します。デジタルアイデンティティを証明する技術がエコシステムプレイヤーの真正性を保証し、データの信頼性を保証する技術が、データスペース¹上の安全なデータ共有を可能にします。

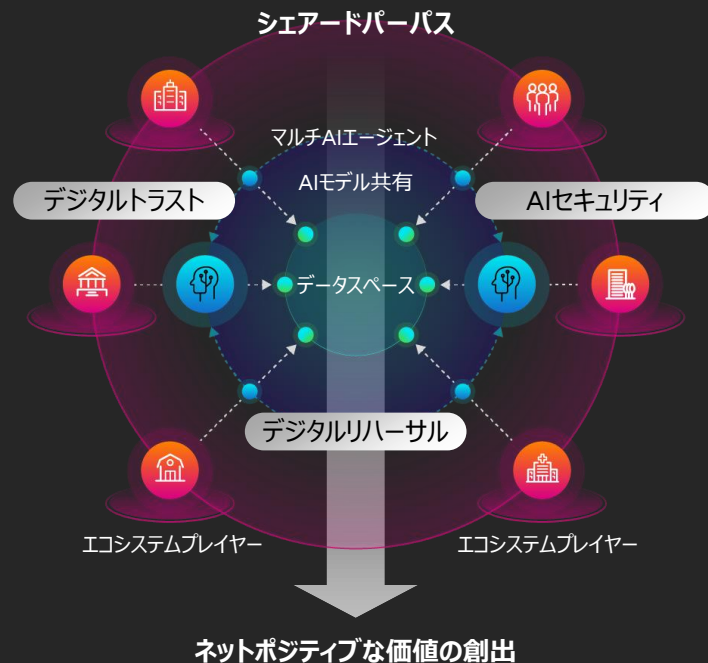
また、AIを安全に活用するためのセキュリティ技術（Security for AI）や高度化するサイバー攻撃からAIを活用して企業のシステムやエコシステムを守る技術（Security by AI）が、エコシステムにおける安心・安全なAI活用やAIモデルの共有を支えます。

このセキュアな環境下で、安心してエコシステムプレイヤーが、シェアードパーパスの実現に貢献するAIモデルを共有します。マルチAIエージェントは、これらのAIモデルを組み合わせ、施策やサービスの効果、リスクの事前評価を進めます。このような施策のデジタルリハーサルを活用して、起こりうる未来の解像度を上げることによって、多様なステークホルダー間の合意形成を促進することができます。

デジタルトラスト技術とデジタルリハーサル技術が、クロスインダストリー・エコシステムによるネットポジティブな価値創出に貢献します。

1)データスペース: データ主権を守りながら非中央集権型で安全に企業間のデータ共有を行うという概念や仕組み

エコシステムによる社会課題の解決



エコシステムをテクノロジーで支える

富士通は、複雑な社会課題に対応するために、デジタルトラスト技術の強化とともに、デジタル技術と人文社会科学を融合したコンバージングテクノロジーの研究開発を推進しています。

デジタルトラスト基盤を強化

データスペースに不可欠なデジタルトラスト基盤の構築に向けて、富士通は、2つの研究開発を推進しています。1つが、異なる企業認証プロトコルを連携するトラスト相互接続技術「IDYX Trust Interconnect」です。富士通は、本技術を活用して欧州自動車業界のデータスペースであるCatena-Xへ接続する実証実験に成功しました。もう1つがデータトラスト技術です。ドイツの研究機関であるFraunhofer ISSTと共同で、データ信頼性を保証するフレームワークを提案しています。富士通は、トラスト基盤の強化を通じてエコシステム形成に貢献していきます。

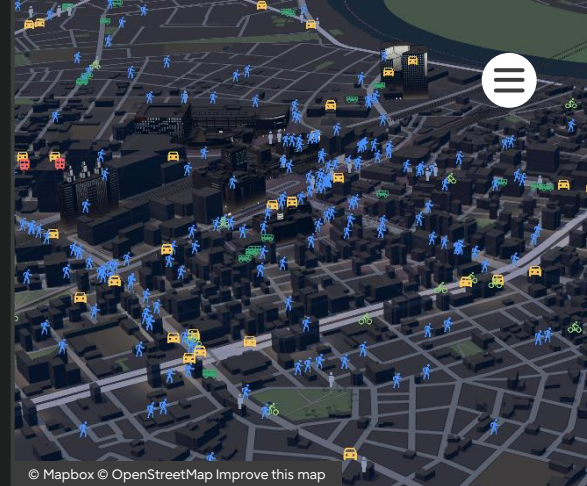
コンバージングテクノロジーで施策を立案

富士通では、サプライチェーン、都市、モビリティ、海洋など複雑なシステムをリアルタイムにデジタルツイン上へ再現し、AIを活用して施策の効果や影響を事前に検証する、デジタルリハーサル技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みの1つが、自治体の施策の効果の最大化を目指すポリシーツイン技術です。過去の施策と実績データをもとに新たな施策候補を生成し、複数の目標指標を同時に向上させる最善の施策の立案を支援します。

グローバルで共同実証を加速

富士通は、持続可能な開発のための経済人会議（WBCSD）のメンバーとして、特に、EVへのシフトを加速する検証をグローバルで推進しています。目覚ましい経済発展を遂げるインドでは、大気汚染やCO₂排出が社会問題となっています。富士通は、ニューデリーとムンバイでEVステーションを最適配置する検証を行い、燃料費を13%削減し、充電時間を70%削減できる可能性があることを確認しました。富士通は、モビリティのデジタルツインをはじめ、社会全体の課題解決に取り組むソーシャルデジタルツインの研究開発に注力していきます。



デジタルリハーサル

人の移動における利便性やCO₂排出量の指標を確認しながら、最適な施策を見出す



テクノロジーがもたらす負の側面

ここまで、テクノロジーの進化がもたらすビジネスや社会へのポジティブな側面を中心に紹介してきました。一方で、負の影響も無視できない規模に拡大しています。

富士通の調査によると、ビジネスリーダーの68%が、AIが生み出す偽情報やバイアスによって、社会の分断が加速すると回答しています。さらに、生成AIによるサイバー攻撃や個人情報の不正利用などのサイバー犯罪が深刻化しています。IMFによると、サイバー犯罪の件数は年間1万件を超えており、かつ1社当たりの損失額も毎年増加、最大の損失額は25億ドルと試算されています。¹

生成AIの普及による電力需要の急拡大が、環境にマイナスの影響を与え、エネルギー価格の高騰といった形でビジネスにも大きな影響を及ぼしています。富士通の調査によると、ビジネスリーダーの69%が、AIの普及による電力消費拡大が、気候変動に大きな影響を及ぼすと回答しています。生成AIの利用拡大により、2026年にはテクノロジーの電力消費量が2022年比で最大2.3倍に増加すると予測されています。² これは、日本の1年分の消費電力に相当します。

わたしたちは、このようなテクノロジーの負の側面にどのように対応していけばよいのでしょうか？ここから、経済成長とともに、セキュリティの確保や環境維持に貢献する富士通のテクノロジーを紹介します。

AIの偽情報やサイバー攻撃による損失は年々増加

68 %

AIが生み出す偽情報やバイアスによって、社会の分断が加速する

25 億ドル

サイバー攻撃による1社当たりの最大の損失額（2021年）

AIの電力消費が気候変動に大きく影響

69 %

AIの普及による電力消費拡大が、気候変動に大きな影響を及ぼす

2.3 倍

2026年にテクノロジーが消費する電力消費量（2022年比）

1) Global Financial Stability Report, IMF, April 2024

2) Electricity 2024, IEA, January 2024

誰もが安心・安全に活用できるAIへ

わたしたちがAIを安心・安全に活用するためには、セキュリティ技術の進化が不可欠です。富士通は、サイバー攻撃や偽情報からビジネスや人を守り、データとAIから価値を生み出すセキュリティ技術の開発をリードしていきます。

マルチAIエージェントによるサイバー攻撃対応

富士通は、更なる高度化が懸念されるサイバー攻撃に対応するために、セキュリティに特化したAIエージェントの研究開発を推進しています。特に、攻撃や防御に関するスキルやナレッジを持つ複数のAIエージェントが連携し、脆弱性や新たな脅威への対策を支援するマルチAIエージェントセキュリティ技術の強化に取り組んでいます。富士通は、このような技術開発を通じて、セキュリティ担当者を支援するとともに、安心安全なテクノロジーの活用に貢献していきます。

産学連携による偽情報対策

インターネット上の偽情報が生み出す政治、経済への悪影響が大きくなる中で、富士通は産学連携で、経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）の一環として、偽情報対策プラットフォームの開発に着手しています。

この技術は、インターネット上の情報を収集し、整合性や矛盾を総合的に分析することで真偽判定を行います。これにより偽情報による社会への悪影響を撲滅し、信頼性の高いデジタル社会の実現に貢献します。

テクノロジーの倫理的課題に取り組む

富士通では、安心安全なAIを提供するために、テクノロジーによる解決だけでなく、社内やお客様においてAI倫理を浸透し実践するための様々な取り組みを行っています。社会に対する約束として定めた「富士通グループAIコミットメント」のもと、社内浸透のためのAI倫理教育やAI統制を実施し、AIリスクの低減に努めています。また「生成AI活用ガイドライン」など多様な資料を広く公開しているほか、国内外のAI規範の取り組みへの参加や、教育研究機関との産学連携の推進など、AIビジネスを倫理面から強化する取り組みを行っています。



マルチAIエージェントセキュリティ

複数のAIエージェントが連携し、脆弱性や新たな脅威への対策を支援



環境への価値創出に貢献する基盤技術

今後のテクノロジーの開発においては、経済成長とともに、環境への価値創出に貢献することがより重要になっていきます。富士通は、ネットワークやコンピューティングの研究開発で高性能と低消費電力の両立に取り組んでいます。

AIとネットワークの融合による新たな価値創造 高性能と低消費電力を両立

AIの進化に伴いネットワーク需要が拡大する中、富士通は、環境への影響を最小限に抑えるネットワーク技術の開発に取り組んでいます。例えば、無線アクセスネットワーク（RAN）における運用の複雑さや高電力消費という課題に対して、AIで運用を自動化しネットワークリソースを最適化する技術を開発しています。また、ユーザーの体感品質向上や新たなビジネス創造の加速を目指し、ソフトバンクと共同で、AIとRANを統合する新しいアーキテクチャであるAI-RAN向けソフトウェアの研究開発を行っています。

さらに、AIの更なる進化を見据えて、富士通は、分散したAIをリアルタイムにつなぐ次世代のネットワークの実現に貢献していきます。富士通は、分散したデータセンターを超高速かつ低遅延につなぐオール光ネットワークや、ICTリソースを分離して柔軟に組み合わせる分散コンピューティング技術の研究開発に取り組んでいます。

富士通は、AIを活用した価値創出と電力消費低減を加速するための戦略的協業を推進しています。富士通は、Supermicro社と協業し、省電力プロセッサ「FUJITSU-MONAKA」を搭載したAIコンピューティングプラットフォームを開発しています。Supermicroの水冷ソリューションと組み合わせ、高性能かつ低消費電力なAIインフラの共同開発を進めています。

また、AIのオープン化を加速するためのサステナブルなコンピューティング基盤の実現に向けてAMD社と戦略的協業を開始しています。富士通のCPU技術とAMDのGPU技術を持ち寄り、両社で大規模なAIワークロード処理を実現、データセンターのTCO削減を促進する取り組みを進めています。



富士通の 重点技術領域

富士通はこれまで紹介してきた人とテクノロジーが創る未来の実現に向けて、5つの重点技術領域に自社の研究開発を集中させています。AIを進化させていくとともに、他の4つのテクノロジーとの融合を通じて、イノベーションを生み出していきます。

また、新たなフロンティアへの挑戦として、空間全体を認識して制御する空間ロボティクスや宇宙データの活用に関する研究を進めています。

富士通の5 Key Technologies



Computing

量子・コンピューティング技術で
AIを革新的に進化させイノベーション実現

- ・ AIコンピューティングリソース最適化
- ・ FUJITSU-MONAKA
- ・ 量子コンピューティング



Data & Security

AIがもたらす社会・企業のリスク低減に向けた「デジタルトラスト」の実現

- ・ マルチAIエージェントセキュリティ技術
- ・ 偽情報対策プラットフォーム
- ・ AIセキュリティ、AI倫理、AIガバナンス



AI

最先端のAI技術で人の働き方や企業経営
を変革し、ネットポジティブな社会を実現

- ・ Fujitsu Kozuchi
- ・ 業務特化の生成AI「Takane」
- ・ 業務特化AIエージェント
- ・ Composite AI



Network

AIによるネットワーク運用の最適制御と
先進ネットワークによる分散AIの世界を実現

- ・ AI-RAN
- ・ オール光ネットワーク
- ・ ディスアグリゲータッド・コンピューティング



Converging Technologies

デジタルツインと人文社会科学が融合した
AIで多様な社会課題を解決

- ・ ソーシャルデジタルツイン・海洋デジタルツイン
- ・ デジタルリハーサル
- ・ ポリシーツイン



最先端技術で未来を切り拓く

富士通は、自社の研究開発の強化に向けて、以下の3つのオープンイノベーションの取り組みを推進しています。

1 | Fujitsu Research Portal¹

アカデミアやスタートアップ、企業の皆さまを対象に、富士通の技術をいち早く体験していただけるポータルサイトを開設しています。このポータルでは、生成AIやトラスト技術など、様々な技術コンポーネントのAPIやWebアプリケーションを無償で利用することができます。

2 | 富士通スモールリサーチラボ

富士通は、産学連携の活動を行う「富士通スモールリサーチラボ」を設立し、国内外17大学と異分野融合による社会課題の解決や新規研究テーマの発掘に取り組んでいます。大阪大学との量子コンピュータの実用化の加速や横浜国立大学との世界初の台風に伴う竜巻の予測を可能にする気象シミュレーションなどの成果を生み出しています。

3 | スタートアップ協業

富士通は、機械学習自動化や超音波AI解析などの技術提供を通じて、多くのスタートアップと協業を推進しています。

富士通は、これらの取り組みを通じて研究開発を加速し、その成果をAIサービス「Fujitsu Kozuchi」などのサービス・ソリューションに組み込み、お客様の企業変革に貢献していきます。

1) Fujitsu Research Portalの詳細は、65ページを参照。





テクノロジーでビジネスや社会を変革

Vivek Mahajan 富士通 執行役員副社長CTO

テクノロジーは、世の中をより良い方向に変えていく原動力として、大きな可能性を秘めています。特に、近年のAI技術の進化は目覚ましいものがあります。しかしながら、その進化はまだ始まったばかりであると考えています。

AI技術が持つ可能性を最大限に活かすためには、AIの社会実装を着実に進めていくことが重要です。そのためには、環境負荷に配慮したAIを実現するコンピューティングやネットワーク技術、倫理的配慮に基づいた信頼できるAI、安全なAI活用を支えるセキュリティ技術が不可欠です。このように、テクノロジーで環境や人々の生活をより良い方向に導くことが重要な鍵となります。

富士通は、これらの技術を融合した研究開発に加え、オープンイノベーションを積極的に活用することで、グローバルにビジネスや社会に変革をもたらすサービスやソリューションを提供できると確信しています。

変化が速いビジネス環境においてお客様の課題を解決するためには、最新技術を迅速に提供し、そのフィードバックを基に技術を早急に改善していくアプローチが不可欠です。

当社の「Fujitsu Kozuchi」は、まさにそのようなアプローチを体現したすぐに利用できるAIソリューションです。お客様への認知度向上に伴い、ビジネスへの具体的な貢献事例も確実に増えています。

わたしはCTOとして、富士通のテクノロジー戦略を統括し、AIを中核とした5つの主要技術（5 Key Technologies）の研究開発に注力します。このような技術の研究開発を通じて、他社にはない革新的な技術を創出し、皆さまにお届けできるよう、技術開発を強力にリードしていきます。

変革に向けたアクション

3



未来への「道」

ここまで、人とAIを中心としたテクノロジーの創り出す未来と、環境・経済・ウェルビーイングへの価値創出について描いてきました。

では、この未来へと続く道を歩むために、わたしたちが取り組むべきことは何でしょうか？



4つの変革

社会への価値創出とビジネスの持続的な成長を実現するためには、Module2で紹介した人・ビジネス・社会・テクノロジーの4つの領域において、変革に取り組むことが重要です。富士通は、AIの活用とクロスインダストリーのパートナーとの連携が、これらの変革を進めるうえで重要な役割を果たすと考えています。

Module3では、この4つの領域において、富士通がどのようにテクノロジーを活用してお客様の変革を支援し、クロスインダストリーの取り組みを加速できるのか、具体的な事例とともに紹介します。

01 | People 人

人とAIの協調を通じて
どのような価値を創出するか？



02 | Business ビジネス

AI駆動型の企業への変革を
どのように実現するか？



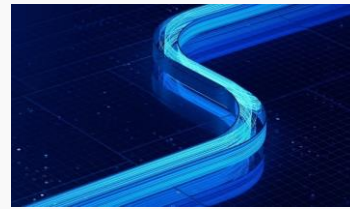
03 | Society 社会

ビジネスと社会への価値創出を
どのように両立させるか？



04 | Technology テクノロジー

企業変革の土台となるIT基盤の刷新を
どのように進めるべきか？



01 | 人とAIの協調で生産性を向上

AI導入の計画策定から導入・活用まで、エンド・ツー・エンドで支援

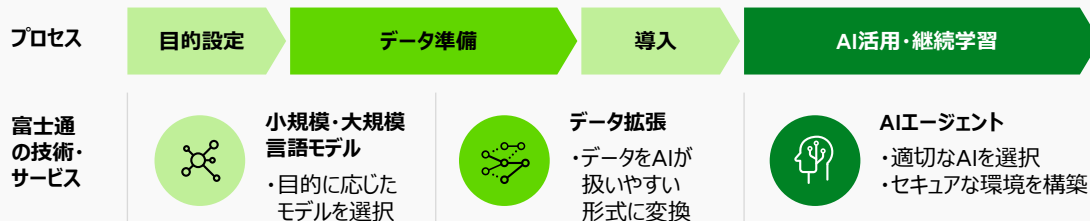
AIの飛躍的な進化により、人々は定型業務から解放され、より創造的で高度な業務に専念できるようになります。企業は、従業員の業務効率化や満足度向上を実現するために、AI活用を積極的に推進し、目的設定、データ準備、AI導入、本格活用・継続学習というプロセスを着実に実行していくことが重要です。

富士通は、AI導入の各プロセスにおいて、豊富な実績と知見に基づき、最適なテクノロジーやサービスを提供します。エンド・ツー・エンドでお客様のビジネスプロセス全体を最適

化し、競争力強化と新たな価値創造を支援します。様々な用途に応じて最適なAI技術を選定し、AI活用に不可欠なデータ変換・拡張や、セキュアな環境構築などを提供します。

富士通は、AIエージェント、そしてマルチAIエージェントへと進化するテクノロジーの未来を見据え、AIの技術開発とサービスの提供を通じて、お客様の事業成長と人々のウェルビーイングに貢献していきます。

AI導入プロセスと富士通の技術・サービス



客室乗務員のレポート作成 業務効率化

日本航空株式会社（JAL）では、客室乗務員から空港地上スタッフへの引き継ぎレポート作成業務の効率化が課題となっていました。従来のシステムでは、自由記述欄のあるテンプレートに沿って業務引き継ぎレポートを作成していました。

この課題に対し、富士通と製造業、小売業、金融業など幅広い業界のDX推進を支援するヘッドウォータースは、客室乗務員の利用環境を考慮し、オフライン環境でも動作する小規模言語モデル（SLM）であるマイクロソフトの「Phi」を活用した業務特化型オンデバイス生成AIソリューションを開発しました。客室乗務員がフライト中の機内で、タブレット端末上でチャット形式で入力した情報に基づき、レポートが自動生成される仕組みです。

富士通は、AIサービス「Fujitsu Kozuchi」で培った開発ノウハウを生かし、客室乗務員の業務に特化したモデルへとファインチューニングしました。一方、ヘッドウォータースは、オフライン環境のデバイスでも安定稼働するように開発を行い、タブレット端末上での動作を最適化しました。JALにおける実証実験を行った結果、レポート作成にかかる作業時間および修正発生率が削減できたことを確認できました。

今後、富士通とヘッドウォータースは、業務特化型SLMを「Fujitsu Kozuchi」の生成AIとして活用し、オフライン環境で動作するオンデバイス型・エッジ型・オンプレミス型での提供を目指します。両社は今後、AIを活用したJALのさらなる業務改革を支援することで、課題解決を通じて顧客サービス向上に貢献していきます。



日本航空株式会社

<https://www.jal.com>

日本航空は、安全を最優先に、お客さまに最高の空の旅を提供する日本の航空会社です。国内外を結ぶ豊富な路線網と、きめ細やかなサービスで、お客さまの快適な移動をサポートします。



AIで実現する、フォークリフト オペレーターの安全意識向上

フォークリフトは、工場や物流倉庫など、人と物が行き交う場所で使用されることが多く、オペレーターには、安全運転が求められています。そのため、ドライブレコーダーを活用してオペレーターの安全運転を評価するケースが増えていますが、記録映像の確認にかかる時間や評価のばらつきが課題になっています。

豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー（以下、トヨタL&F）と富士通は、トヨタL&Fの物流ノウハウと富士通のAIサービス「Fujitsu Kozuchi」を組み合わせ、日本で初めてフォークリフトやオペレーターの動きをAIが解析し、安全運転を評価するサービス「運転動画AI解析」を開発しました。

「運転動画AI解析」は、フォークリフトの旋回・走行やオペレーターの安全確認動作などを学習したAIが、ドライブレコーダー映像を解析し、「急旋回」等の不安全な操作を自動検出します。また、各オペレーターの安全運転は、成績表として表示されます。これにより、映像確認時間の短縮やオペレーターの安全意識の向上が期待できます。

「運転動画AI解析」は、トヨタL&Fのサービス群「FORKLORE」に組み込まれて提供されています。トヨタL&Fは、より安全で快適な物流現場の実現に向けて、「FORKLORE」を拡充していきます。富士通も、蓄積した画像データの分析、可視化などを強化し、安心安全な労働環境の実現に貢献していきます。



豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー

<https://www.toyota-lf.com/>

豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニーは、産業車両や物流システムを提供する豊田自動織機の社内カンパニーです。トヨタ生産方式を基盤に、お客様の物流効率化・最適化を支援するソリューションや、環境に配慮した製品開発に注力しています。

02 | AIで組織内の意思決定を高度化

Decision IntelligenceでAI駆動型企业への変革を実現

不確実なビジネス環境の中で、企業は迅速かつ高度な経営判断を求められています。この難局を乗り越えるためには、組織内に散在する貴重なデータを統合し、AIを組み込むことで企業の意思決定を高度化する「Decision Intelligence」へのシフトが不可欠です。Decision Intelligence は、①意思決定プロセスをモデル化し、②AIエージェントが継続的に意思決定プロセスを学習・最適化し、③そのプロセスを他の業務プロセスとシームレスに連携させることで、企業全体で一貫性のある意思決定を実現できます。

Fujitsu Data Intelligence PaaS (DI PaaS) は、Decision Intelligenceを実現する強力なツールです。オールインワンオペレーションの運用環境上で、AIなどの先進的な技術と豊富な業務テンプレートを組み合わせて、お客様が抱える複雑な課題解決に直結するインサイトをデータから迅速に導き出すことができます。

富士通は、Decision Intelligenceを実現するコンサルティングサービスとそれを支えるDI PaaSの提供を通じて、お客様のAI駆動型への企業への変革を支援します。

Decision Intelligenceの3つの基本要素

- 1 明示的意思決定モデリング** 意思決定プロセスを形式化し、構造化、文書化、再現性を確保
- 2 フィードバック駆動の最適化** 継続的学習ループを使用し、将来の意思決定を改善
- 3 意思決定のオーケストレーション** 意思決定ワークフローを積極的に管理し、より広範なシステムに統合

インサイトをデータから導き出すDI PaaS



The screen shown in this promotional material is for demonstration purposes only, and all data presented is notional. These screens may not fully reflect the features and capabilities of the final product. © 2025 Palantir Technologies Inc.



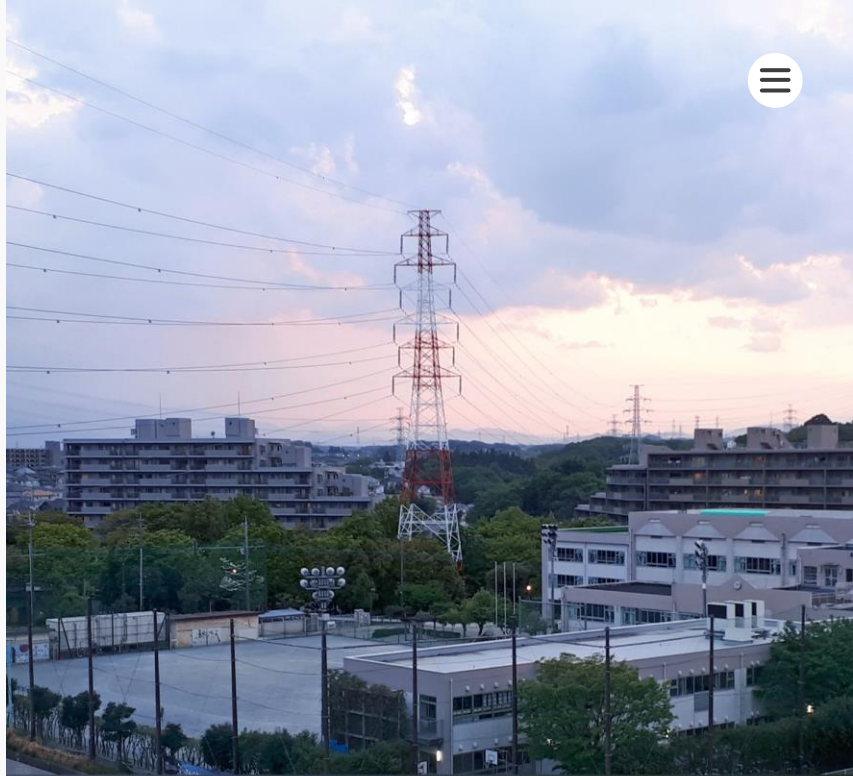
安心・安全な社会づくりを実現

安心・安全な社会を維持・発展させるためには、送配電事業者では、平時や有事を問わない電力の安定供給、再生可能エネルギーの利用促進、送配電設備の維持管理、運用コスト削減といった様々な課題解決が求められています。

関西電力送配電は、これまで帳票出力していたエラー情報について、「Fujitsu Data Intelligence PaaS」を活用することで、スマートメーターの30分ごとの電力使用データを抽出し、設備・工事情報とも紐づけて、故障の恐れのある対象設備の状況をダッシュボードで可視化しました。これにより、紐づけられた情報をもとに設備故障の兆候などを効率的に捉えることが可能となりました。また、収集・蓄積・可視化されたデータを分析することで、エラー抽出精度の継続向上にもつながります。

加えて、関西電力送配電と富士通は、次世代スマートメーターの機能の一つである遠隔アンペア制御機能の発動効果の有効性も検証しました。本検証では、「Fujitsu Data Intelligence PaaS」を活用し、約10万件のスマートメーターから取得した電力使用データを用いて電力使用量の削減効果を可視化できるアプリケーションを試作しました。その結果、節電協力を求める必要のある時間帯や削減量などの影響範囲をより効率的に確認することができました。

今後も関西電力送配電における設備や電力使用データなど様々なデータのつながりを表現したデジタルツインの領域を拡張し、より高度かつ様々な視点でのデータ活用を促進することで、データドリブン経営および業務改革を支援します。



関西電力送配電

<https://www.kansai-td.co.jp/>

関西電力送配電は、日本・関西地域2府4県を中心に、約1,300万戸へ電気を安定供給する送配電事業者です。電力ネットワークの維持・運用を通じて、地域の経済活動や暮らしを支えています。

03 | エコシステムで社会課題解決を促進

Fujitsu Uvanceで社会課題の解決に挑む

富士通は、社会課題の解決に取り組む事業モデル「Fujitsu Uvance」を通じて、業種を越えた多様なパートナーとのデータ連携や共創を推進しています。たとえば、責任あるサプライチェーンの推進に向けた「Fujitsu Unified Logistics」を活用した共同物流の実証や、米国 Paradigm Healthとの協業による治験プロセスの加速に取り組んでいます。

こうした社会課題に対応するためには、異なる業界に属する多数の企業のデータが必要です。そのため近年、データを安全かつ効率的に共有・連携させる「データスペース」に注目が集まっています。

富士通は、先進的なトラスト技術で業界横断でのデータ連携の実現に貢献しています。また、社会課題解決に向けて、グローバル標準にのっとり製品カーボンフットプリントを算定し、CO₂削減策の効果を試算するなどの実践のリードも行っています。

今後も富士通は、パートナー企業と共に、エコシステムを通じて新たなビジネスモデルを創出し、ビジネス成長と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

パートナーと共に、業界横断で社会課題への対応を加速

治験のデジタル化

Paradigmの治験プラットフォームと、富士通のデータ基盤を活用し、治験計画業務の効率化を推進

フィジカルインターネットの実現

物流・商流データの標準化を推進し、共同輸配送などでフィジカルインターネットの実現に貢献

データスペース間の接続実証

欧州の代表的データスペース「Catena-X」に参画し、日本の「ウラノス・エコシステム」との接続実証をリード

業界ごとのデータ連携

業界横断のデータ連携

業界の垣根を越えた物流効率化

物流業界は、持続可能なサプライチェーンの構築のために、労働力不足への対応や環境負荷の軽減など様々な取り組みが求められています。持続可能なサプライチェーンの構築のために、その手段として共同輸配送が注目されていますが、荷主企業の業種・業界ごとにシステムや規格、商慣習などが異なることが大きな課題となっていました。

そこで、ヤマトグループは、企業間の垣根を越えた物流効率化に向けて2024年5月に新会社 Sustainable Shared Transport（以下、SST）を設立しました。そして、SSTは、富士通と共同で開発したデータを連携するための基盤システムをベースに共同輸配送オープンプラットフォームの稼働を開始しました。

このプラットフォームを通じた荷主企業と物流事業者の情報マッチングにより、積載率の向上やドライバーの負担軽減が可能となります。また、業種・企業間のデータ連携が容易になることで、物流効率化に向けた企業間の協力を促進します。さらに、富士通のブロックチェーン技術やサイバーセキュリティの知見と技術を活用することで、業種・企業を跨ぐデータ連携において、セキュリティが担保された安全なデータ連携を実現します。

今後、SSTと富士通は、ヤマトグループの法人顧客や物流事業者とのパートナーシップ、輸配送のノウハウと、富士通のシステム構築のノウハウを組み合わせることで、持続可能なサプライチェーンの実現を目指します。



Sustainable Shared Transport株式会社

<https://sst-green.co.jp/>

Sustainable Shared Transport株式会社は、ヤマトホールディングス株式会社傘下で共同輸配送のオープンプラットフォームを提供するとともに、持続可能な地域物流網の構築や標準パレットを中心とした輸配送サービスを提供しています。

人とAIの協働が、未来を動かす

高橋 美波 富士通 執行役員副社長COO（ソリューションサービス）

2024年2月、「AIはわたしたちのバディになる」と発表して以来、Fujitsu Uvanceは、人とAIが協働する時代を見据え、Data & AIの強みを活かしたオフリングの進化に取り組んでいます。

わたしたちが目指すのは、AIが人の意思決定を支え、新たな価値を共に創り出す未来です。たとえば、富士通のAIエージェントや大規模言語モデル「Takane」を中核とするAI群「Fujitsu Kozuchi」は、すでにお客様の現場で、日々の意思決定を支える“相棒”として活躍しています。このような自社技術に加え、グローバルパートナー企業の先進技術も積極的に活用しています。さらに、テクノロジーと業種の両方に精通したコンサルタントの力を掛け合わせることで、社内外の膨大なデータを統合・可視化し、お客様の複雑な課題の本質を捉えて解決へと導く—このような変革をもたらす事例が数多く生まれています。

こうした取り組みをさらに加速させる鍵は、業界の枠を越えたエコシステムの構築にあります。物流・医療・製造など、多様な分野の知見とデジタル技術を融合することで、たとえばドラッグロス解消に向けた治験プロセスのデジタル化や、共同輸配送プラットフォームによる業界横断的な物流効率化など、社会全体にインパクトを与える新たな価値を次々と創出しています。

これからわたしたちは、お客様とともに、DataとAIをはじめとするテクノロジーと人の力を融合させ、ビジネスインパクトとソーシャルインパクトの両立に挑み続けます。そして、より良い社会へと導く、未来を動かすビジネスを育てていきます。



04 | 企業競争力を高めるIT基盤へ

変革の土台を築く

これまで企業の取り組みと富士通がどのように変革を支援するのを紹介してきました。この企業変革の土台となるのがIT基盤です。

現在、多くの企業が、複雑化・老朽化したシステムや、それを維持・管理できる人材の不足といった深刻な問題に直面し、これが変革の障壁となっています。

また、システムの刷新には、システムのブラックボックス化、刷新に伴う初期投資や障害発生リスクなど、多くの障壁が存在します。

富士通は、長年培ってきた豊富なナレッジと経験を踏まえて、これらのIT基盤の課題を一つ一つ乗り越えるためのソリューションを提供し、お客様のビジネス変革を支援していきます。

現行システムが抱える課題



現行システムの
複雑化・老朽化



現行システムを
維持する人材の不足



現行システムの
ブラックボックス化



刷新に伴う
初期投資



刷新に伴う
障害発生リスク

攻めのモダナイゼーション

企業の目指すべき姿の明確化からシステムの実装まで伴走

富士通は、長年のITシステム構築で培ったノウハウ、専門技術者チーム、そしてコンサルティングから最新技術の導入までを総合的に支援する体制を整え、IT基盤の刷新をサポートしています。コンサルティングサービスでは、あるべき姿（ToBe）を描くためのグランドデザインの策定を支援します。資産分析サービスは、ブラックボックス化された資産の可視化を可能にします。

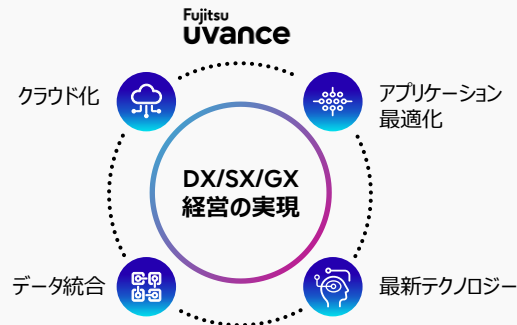
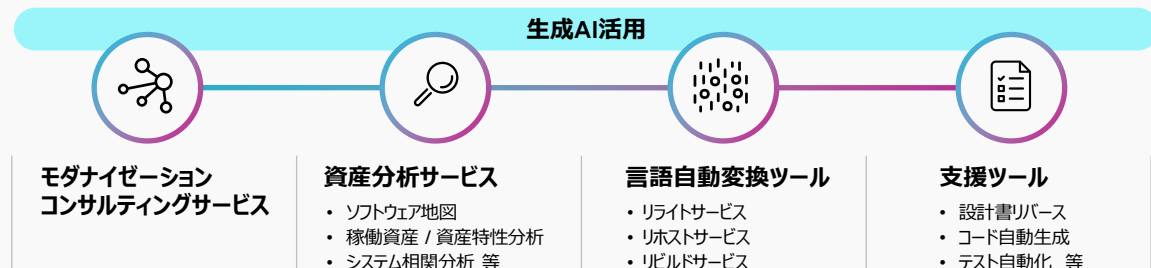
また、生成AIを活用した言語自動変換ツールやコード自動生成などの支援ツールを提供し、レガシーシステムの課題を解消しつつ、クラウドや最新オンプレミス環境へのモダナイズを実現します。富士通はお客様のあるべき姿をともに描き、現行システムの分析からモダナイズの実装まで伴走し、事業変革と3X¹を後押ししていきます。

1) デジタルトランスフォーメーション(DX)・サステナビリティトランスフォーメーション(SX)・グリーントランスフォーメーション(GX)

富士通のモダナイゼーションサービス



Uvance Wayfinders



AI需給予測で業務改革を実現

建設資材の開発・製造・販売をトータルに担う丸井産業は、これまでメインフレームで構成されたITシステムを運用していましたが、需要予測が難しく、欠品や余剰在庫が発生しがちなことや、ビジネス環境や組織の変化にすばやく対応できないことが課題でした。そこでこれらの課題を解決するDXパートナーとして富士通を選定し、モダナイゼーションを実行しました。

まずAIを活用した需給計画システムを構築し、生産計画の最適化を図りました。次に一連の業務フローの「見える化」「平準化」を行い、業務の効率化を実現しました。また業務プロセスと同期したシステムを構築し、変化に柔軟に対応できるシステム環境を構築しました。

代表取締役副社長の吉村良介氏は、モダナイゼーションの成果について、次のように述べています。「AIの予測に基づき最適な生産計画を立て、必要な量だけ部材を調達して生産し、スピーディーに配送する。一連の業務フローが整備されたことで、事業活動全体の効率化とともに、顧客満足度の向上にもつながりました。今後は、ハードだけではなく構造計算などソフト面のサポートもあわせて提供するなど、新たな価値創出に努めます。」



丸井産業株式会社

<https://www.marui-sangyo.jp/>

創業1958年の丸井産業は広島県に本社を置き、歴史ある「メーカー」×「商社」の総合企業として、建築資材、設備資材、電設資材などの製造および販売を行っています。

DXを加速するモダナイゼーション

島津 めぐみ 富士通 執行役員副社長COO（サービスデリバリー）

デジタル技術の進化が加速する中、競争力を維持するためにも、常にITシステムをアップデートする必要があります。レガシーシステムはセキュリティリスクを増し、運用コストを肥大化させる上、最新技術の導入を阻害します。モダナイゼーションによってこれらの課題を克服し、ビジネスの可能性を最大限に引き出す必要があります。

富士通の強みは、長年培ってきた豊富なナレッジと経験です。国内最大級の顧客基盤を持ち、レガシーシステムから最先端技術まで対応できる技術者を擁しています。2022年に設立した「モダナイゼーションナレッジセンター」では、1,200件を超えるプロジェクトを通じて得たナレッジを蓄積しており、高品質かつ高信頼のシステム移行を実現しています。

また、当社ではシステム開発における生成AIの活用にも積極的に取り組んでいます。LLM（大規模言語モデル）を活用した、ITシステム資産の分析とシステム設計情報の生成により、最適なモダナイゼーションの計画策定を実現する「Fujitsu 資産分析・可視化サービス」の提供を今年2月から開始しました。

コンサルティングからシステム構築、DX/SX/GXの実現に至るまで、エンド・ツー・エンドのソリューションを提供できる点も強みです。モダナイゼーションコンサルティング、資産分析サービス、言語自動変換ツール、生成AI活用サービスなど、実績のあるサービス・ツールを組み合わせることで、お客様にとって最適なモダナイゼーションを実現します。

共に未来を創る

これまでネットポジティブの実現に向けて、人、ビジネス、社会、テクノロジーの領域でどのような変革に取り組むべきか、さらに富士通がどのような支援ができるのかを紹介してきました。

最後に、お客様の変革をさらに支援するための富士通のコンサルティングと、経営基盤の強化の取り組みについてご紹介します。



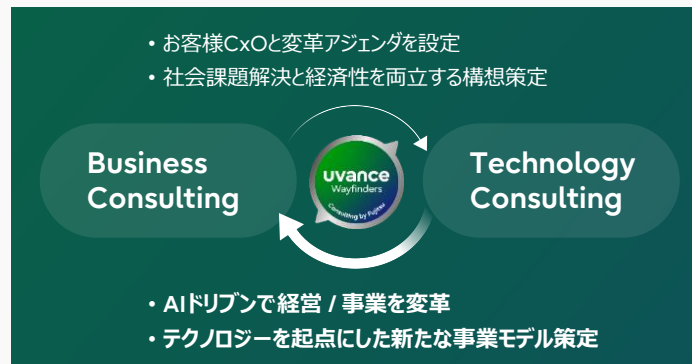
Uvance Wayfinders

ビジネスとテクノロジー変革を支援するコンサルティング

これまで富士通は、様々な社会課題を解決するために、新たな技術を自ら生み出し、事業モデルを常にアップデートすることで、道なき道を切り拓いてきました。富士通のコンサルティング「Uvance Wayfinders」は、こうした富士通のDNAと歴史を受け継ぎながら、人・ビジネス・社会が複雑に絡み合う課題に対し、お客様とともにネットポジティブな社会の実現に向けた戦略や構想を策定し、変革を実行していきます。

「Uvance Wayfinders」は、様々な業種の知見やグローバルな事業展開で培った実践知、そしてAIを中心とした最先端テクノロジーを活用し、新たなコンサルティングモデルを確立します。企業がテクノロジーを活用して生産性を飛躍的に高め、人・ビジネス・社会にポジティブなアウトカムをもたらすことを支援します。

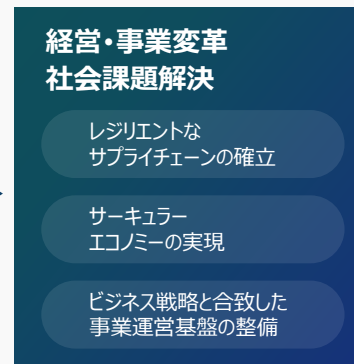
戦略・構想策定



変革実行



アウトカム



Uvance Wayfindersが変革を先導する

大西 俊介 富士通 執行役員副社長CRO

経済合理性と持続可能性を両立するビジネスを確立するには、異業種との協業で新たな会社を立ち上げるといった業界の構造を変えるような大胆な変革が求められます。お客様の変革を先導するために、富士通のテクノロジーと様々な業種の課題解決に取り組んできた知見を結集し、「Uvance Wayfinders」を強化していきます。

テクノロジーは、既存のビジネスや産業を変革する大きな力を持っています。富士通は、自社の研究所が生み出すAIを中心とする最先端技術を活用し、ビジネス変革を支援するテクノロジーコンサルティングを拡充していきます。

そして、今年度から業界の枠を越えて変革を支援する新たな体制をスタートします。富士通のコンサルティングビジネスをリードする新組織を立ち上げ、Fujitsu Uvanceの取り組みを通じて得た業界横断的な知見と製造や流通などの各産業の深い洞察を融合し、お客様に新たな価値を提供していきます。

富士通もFujitsu Uvanceを軸とする変革に取り組んでいます。そして、Uvance Wayfindersをお客様と富士通の変革の先導役と位置づけ、さらなる強化を図っていきます。テクノロジーを活用した変革に取り組む際には、是非わたしたちに声をかけてください。



変革のパートナーへ

パーパス実現に向けた富士通の変革

富士通は、お客様の変革を支えるパートナーとして、自らも変革に挑戦し続けています。

わたしたちのパーパスは、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にすること」です。パーパスの実現に向けて、これまで紹介してきた3つの事業変革とともに、事業を支える経営基盤の変革を推し進めています。

経営基盤の変革において特に力を入れているのが、オペレーション変革と人材強化です。国内外の4,000超のシステムを統合した経営基盤「OneFujitsu」を導入し、2024年10月に稼働を開始しました。また、社内カルチャー変革を主導する全社DXプロジェクト「Fujitsu Transformation（FUJITRA）」や、働き方・人事制度の改革にも取り組んでいます。

富士通は、パーパスの実現を目指す中で得た経験とノウハウをお客様と共有し、ともに企業変革を推進します。

富士通の変革

富士通のパーパス

イノベーションによって社会に信頼をもたらし、
世界をより持続可能にすること

事業変革

Uvance
Wayfinders

Fujitsu
Uvance

Fujitsu
Modernization

経営基盤変革

オペレーション変革
(OneFujitsu)

カルチャー変革DX
(FUJITRA)

戦略・投資改革

働き方改革

人事制度改革

企業価値向上へのAI駆動の経営

磯部 武司 富士通 代表取締役副社長CFO

企業には、予測不可能で複雑な経営環境下においても、持続的な企業価値の向上が求められています。その実現には、企業自身の進化や変革が不可欠です。これまでもCFOとして、既存事業の競争力を高めるとともに、社会課題の解決に向けたビジネスに投資するなど、経営資源を最適に配分し、価値創造のための経営サイクルを回してきました。

では、この好循環を生み出す鍵は何か。わたしは、それがデータとAIであると確信しています。富士通は2024年にリアルタイムでビジネス状況を把握するためにグローバル標準のデータ基盤の稼働を開始しました。営業や研究開発の現場で起こっていることをリアルタイムに把握し、最適かつ迅速に経営判断を下すデータドリブン経営を実践しています。

また、AIを顧客対応、開発や評価の現場等ビジネスのあらゆる領域に適用する取り組みも進めています。AIを活用し、売り上げや商談パイプラインの実績、推移などを基に、受注や売り上げの予測を行っています。さらに、2025年からは経営会議にAIエージェントを導入し、意思決定に必要なデータのリアルタイム提供や、会議の論点整理を支援する取り組みを開始しました。

富士通は、今後も持続的な企業価値の向上に向けて、データとAIを活用した経営変革を実践していきます。この実践で培ったノウハウや経験をお客様と共有し、ともにデータドリブン経営を加速させることで、パーパスに掲げる持続可能な社会の実現を目指します。



変革への道をゆく

FT&SV 2025では、人とAIの協働で新たな価値を生み出し、クロスインダストリーのエコシステムを通じて社会全体に広げていくことで、持続的なビジネス成長とともに、環境や社会をより豊かに再生していく未来を描いてきました。

富士通は、変革のパートナーとして、テクノロジーからコンサルティング、サービス、モダナイゼーションまで、あらゆる領域でお客様の企業変革を力強く支援していきます。ネットポジティブな価値を創出する新たなビジネスをともに創造していきましょう。

世界中のお客様と社会課題に取り組む



持続可能な事業成長を実現

Reitan Convenience
Sweden (RCS)

RCSは、スウェーデンで400以上の店舗を運営するコンビニエンスストアのリーディングカンパニーです。RCSと富士通は、店舗運営システム導入やリアルタイムデータ活用で協調し、顧客体験向上や廃棄物の削減を実現しました。両社は、コンビニエンスストアの持続可能性と利便性の両立にこれからも取り組んでいます。



エネルギーの未来を守る

The Australian Energy Market
Operator (AEMO)

オーストラリア全域でエネルギーシステムを運営するAEMOは、再生可能エネルギーの導入、安定的なエネルギー供給、老朽化したシステムの刷新に取り組んでいます。同社は、富士通と協業し、統合プラットフォームとしてServiceNowを導入、迅速なサービス提供、セルフサービスの強化、リスクの一元管理を実現しました。



公共施設の環境改善

ドイツ・バルスビュッテル市

ドイツのバルスビュッテル市は、富士通のIoTソリューションを活用し、公共施設のエネルギー効率化と環境改善に取り組んでいます。温度やCO₂濃度などのデータを収集し、「IoT Operations Cockpit」で分析。室内のCO₂濃度の超過や高温などの異常を検出し、換気などの対策に生かし、学習・労働環境の改善を進めています。



社会保障システムのDX推進

カナダ政府

カナダ政府は、老朽化した社会保障システムを刷新する10年間のDXプログラムを推進しています。富士通は、計画策定、システム統合、人材管理、セキュリティ対策など、包括的に支援しています。技術的負債の解消、業務効率化、国民サービスの向上を実現し、持続可能な社会保障システムの構築に貢献しています。

参考情報



富士通統合レポート

富士通グループの事業活動と価値創造に向けた取り組みを総合的かつ簡潔にステークホルダーの皆様にお伝えしています。

<https://global.fujitsu/ja-jp/about/integrated-report>



お客様事例

富士通がお客様のビジネス全体にどう貢献したかの事例をご覧ください。

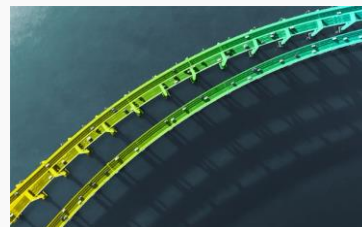
<https://global.fujitsu/ja-jp/customer-stories>



Fujitsu Research Portal

富士通の先進技術を、様々な用途で、いち早くお試しいただく環境として、技術コンポーネントのAPIやWebアプリケーションを無償で公開しています。

<https://portal.research.global.fujitsu.com/>



ネットポジティブインデックス

17問のアンケートを通じて企業のネットポジティブ度を評価します。同業界や地域の企業と比較することで、自社の取り組みの進捗や市場での立ち位置を把握できます。

<https://impact.economist.com/ja/projects/advancing-net-positive/assessment-tool>



富士通株式会社

〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1

電話：044-777-1111（代表）

<https://global.fujitsu/ja-jp/>

商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

将来に関する予測・予想・計画について

本冊子には、富士通グループの過去と現在の事実だけではなく、将来に関する記述も含まれていますが、これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した内容とは異なったものとなる恐れがありますが、富士通グループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆さまには、以上をご承知いただきますようお願い申し上げます。

「Fujitsu Technology and Service Vision」の一部または全部を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

